

大阪医科大学学報

第40号 平成11年5月



桜景色（管理棟）

◆目 次◆

酉泉の設立について	2
平成11年度医学部・大学院入学宣誓式	5
定年退職教授の最終講義	7
看護専門学校長に就任して	12
新任教授紹介	13
規程関係	14
人事 { 定年退職者、法人、採用、 退職、昇任・異動、 休職・復職、委嘱・解嘱、 海外渡航 }	17~25
盛記念学術受賞式	26
平成11年度の主な事業計画	27
平成11年度予算について	27
学位記授与	30
助成金について	33
平成11年度科学研究費補助金 内定について	34
平成11年度入学試験・国家試験状況	37
行事予定	37
伝染病棟無償譲渡について	37
教室紹介	38
海外出張記	39
学内行事	41
会議	43
附属病院関係	45
保健管理室からのお知らせ	46
俳句	47

ゆうせん 酉泉の設立（本法人の関連会社）について

理事長 田 中 忠 彌

本法人（以下法人という）を取り巻く環境は、少子化、高齢化、女性の社会進出が加速する中で、資産運用収益の低下、消費税の実質負担増加、医療収入の伸び悩み、私学助成の抑制等、厳しい環境にあります。

まさに歴史的な変革期にあるといえます。

新しい時代において本学が最優の私立医科大学を目指して発展し続けるためには、教育・研究・診療の水準を高め、先端医学、医療の情報化、長期的設備の充実等に柔軟に対応する体制を整える必要があります。また、経営全般にわたって健全性を高め、厳しさを増す経営環境にびくともしない強靱な体力をつけることが必要になります。このような内外の環境を踏まえ、法人の財政基盤を強化するために、平成10年3月開催の理事会において、関連会社の設置について種々意見の交換が行われ、審議の結果、法人の関連会社を設置することになりました。その後、事業目的、業務内容及び事業運営について調査を行い、検討の結果、平成10年11月10日開催の理事会で設立が決定され、同月30日、設立総会を開催後、12月2日付で設立登記を完了いたしました。

ゆうせん
酉泉の設立目的、内容等の概要を記述いたします。

記

1. 商 号 株式会社 酉 泉 とする。
2. 所 在 地 高槻市大学町2番7号 大阪医科大学内
3. 発 起 人 学校法人大阪医科大学 理事長 田 中 忠 彌
4. 資 本 金 1,000万円（本法人持ち株率：49%）
5. 役 員 氏 名 取締役会長 田 中 忠 彌
代表取締役 佐 藤 博 之
代表取締役 植 木 實
取 締 役 藤 本 正 三
取 締 役 常 川 治 男

監 査 役 中 村 幸 市

監 査 役 大 槻 哲 彦

6. 目的のあらまし

- 1) 法人の教育・研究・診療の向上に役立つものとする。
- 2) 法人の事業を、収益事業を通じて、新しい領域に拡大していくことができる。
 - ① 例えば、法人が保有する固定資産を活用して外部からの収入を得る。
 - ② 法人が保有する施設を活用して、事業展開を行い社会のニーズに応える。
- 3) 法人の直接、間接業務は、収益事業の対象となりうる。
 - ① 自前で収益事業を行うこと、一括購入・委託を通じて費用の流出を回避・削減する。
 - ② 職員が担当している業務を外部へ委託して、法人の人と経費の削減を図る。
- 4) 収益事業を展開する場合、営利法人の設置が効果的である。

7. 西泉^{ゆうせん}の定款上の目的は次のとおりである。

1. 学校法人大阪医科大学の教職員、卒業生、在学生等への各種保険事務の処理及び
斡旋
2. 学校法人大阪医科大学の施設・設備のメンテナンス、警備保障及び駐車場等の
管理
3. 学校法人大阪医科大学の医療機器、医療用具、医療材料の斡旋販売
4. 学校法人大阪医科大学の教材、学術研究資料、その他印刷出版
5. 学術的各種イベント（講演会、研究会、研修会等）の企画立案及び運営に関する
業務
6. 特定労働者派遣業務
7. 旅行の代理業
8. 損害保険の代理業
9. 生命保険の募集に関する業務
10. 飲食店の経営及び学校、病院、企業等の構内売店の経営
11. コンピューターシステムの開発及び保守に関する業務
12. 各種情報の収集及び提供に関する業務
13. 医療機器、医療用具等のレンタル及びリース業
14. 広告代理店業務

15. 上記各項目に付帯する一切の業務

8. 酉泉^{ゆうせん}による法人への財政的寄与

1. 一般寄附、特定公益増進法人寄附、受配者指定寄附として、法人が受けることができる。
2. 「配当」等の利益処分による財政的寄与。
3. 「諸費用の支払い」による財政的寄与。
法人施設への賃料の支払い、法人からの社員の受け入れによる「給与負担」等
4. 法人事務外注化による諸経費の節約等による法人への寄与。
等による法人への寄与。

9. 法人における収益対象事業

1) 法人にニーズがあるもの（例示）

損害保険代理業、旅行代理店、ビルメンテナンス、警備等。

2) 法人の強みを発揮できるもの

施設の貸し出し、カルチャースクール、人材派遣等。

3) これから期待できるもの

医療サービス、シルバービジネス、コンピューターソフト開発、医療コンサルティング等。

法人が収益事業を実施していく場合、以上のような事業が考えられるが、設立当初においては、比較的风险の少いコミッションビジネスのような確実な方法で行う予定である。

いずれにしましても、法人が所期の目的を達成するには、仁泉会、大阪医科大学医師会、PA会並びに教職員の協力がなければなりません。

何卒よろしくご協力の程、お願いいたします。

平成11年度医学部医学科・大学院医学研究科入学宣誓式

医学部医学科および大学院医学研究科の入学宣誓式が、4月3日(土)午後2時から臨床第1講堂において挙行され、医学部医学科100名(男子64名・女子36名)、大学院医学研究科26名が入学しました。



学 長 告 辞

入学生の皆さん、本日は大阪医科大学にご入学、誠におめでとうございます。ご父兄の皆さんもこの度のご子弟、ご息女のご入学を心からお慶び申し上げます。

さて、我々大阪医科大学の教職員ならびに在学の諸君にとりまして、本日ここに平成11年度の入学宣誓式を挙行し、本学に100名の新しい入学者、ならびに43名の大学院研究科学生を迎えることができましたことは、誠に慶賀すべきことであります。

本学におきましては、3年前より、医学部医学科の入学宣誓式と大学院医学研究科の入学式の両方を同時に挙行いたしております。

入学式は、英語で Entrance Ceremony と申します。Entrance は、enter から来た言葉です。trans は「向こう側に越えて」の意味のラテン語であり、En は In と本質的に同じ語源

です。ですから、「別領域に行く」で、いわば別社会の関をまたぐ意味もあり、精神的には「有頂天にする」という意味も派生しております。入学は希望と夢に満ちて嬉しいもので、別世界に入るのだから心が躍る道理であります。数ある人生のエポックの中でも、最も喜ばしいイベントとして、この日を迎えております。

また、この式典は、入学宣誓式というのですが、Administration of an oath というのですが、誓いを建てて精神的にルールを守ろうという初心を示しています。「初心忘れるべからず、基本に忠実に」という言葉は何れの社会でも通用することです。喜びの中で、皆さんは大阪医科大学の学生として、「初心と基本」という精神を忘れないで欲しいと思います。

本学の創立は、昭和2年、すなわち1927年の2月に溯り、今から72年も昔のことです。創学されたのは、大阪府3区選出の衆議院議員であ

り、また医師でもあった吉津度先生でありまして、大阪高等医学専門学校として開学し、戦後昭和21年に大阪医科大学になりました。吉津度先生の胸像は、この講堂の建物の斜め向かいの本館・図書館棟の入口ロビー正面にあり、また当時の初代校長の足立文太郎先生の胸像は12階建ての本学総合研究棟の1階ロビーにあります。

吉津度初代理事長はクリスチャンでしたが、「海外に雄飛することが出来る、実際に役に立つことが出来る良医の育成」を念願され、本学を創立されました。これが創学精神の一つです。もう一つの創学の精神は、初代校長の足立文太郎先生の言葉で、これは「懸命不動」という言葉です。何事をするにも、命がけで行い、学が成るまでは絶対に動かないという強い意志で貫かれたのです。皆さんは、本学々生として、これらの創学精神を大事にして頑張っておられると願っております。

本学の卒業生数は、今や7,546名に達し、これは全国医師数約24万人の中の約3%であります。まさに「有為の栄光の集団」というべきであります。今日までの卒業生の中には、立派な先生方が多く、全国各地の医療社会で活躍しておられます。たとえば、今世論をにぎわしている臓器移植の問題も、それを法制化されたのは、元外務大臣を務められた中山太郎先生ですが、中山先生もあなた方の先輩です。

後で、学歌の演奏が行われますが、学歌はアメリカでは Alma mater と言います。School Song ではありません。Alma mater は、「母校」という意味があります。この曲は近藤義次さんという東京音楽学校（現在の東京芸大）の卒業生で、長野県出身のバリトン歌手かつ作曲家だったのですが、丁度、作曲家山田耕筰さんと同じ声楽科で勉強されました。この方は、後に京都市立堀川高校の音楽科を創立されました先生です。また、「暁映ゆるひんがしの、山紫に水清く…」という歌詞は、林久男先生といひまして、当時有名なドイツ文学者で、旧制三高（現在の京都大学教養部）のドイツ語教授で、ゲーテ研究の第一人者で、やはり長野県出身者です。近藤義次さんと林久男先生は、共に京都におすまいで、互いに同郷のよしみだったそ

うで、我々の校歌を作られたと聞き及んでいます。我々の Alma mater はこのようにして作られているのです。

本日から、我々は皆さん達を含めて、同僚、同級生が増えることとなります。どうか、互いに信頼され、かつ競争と協調できる相手となるように、互いに友達を大事にしながら切磋琢磨し、勉学に打ち込んで欲しいと思います。

皆さんは、医学の道を選ばれました。医学は「人の健康ならびに病気の予防・治療を講じる学問」であります。今社会から求められている医師像は、「患者の心」が分かる医師でありましょう。今後は、病気の治療・予防を一步超えて、「予知の医学」を目指す時代になって参ると思われれます。現代、医師に求められている「医の倫理」は、来世紀にはますます重要になることでしょう。医学の現場では、これまで余り行われていなかった「遺伝子治療」や次々と変遷する病原との闘いが繰り広げられます。

そこに必要なのは、「科学性」「技術性」「人間性」の三者であります。これを言い換えますと、「医学」「医術」「医道」のいわば、セットとして一つであり、そのいずれが欠けてもベストとは言えません。

皆さんは、今まで受験戦争を闘い、入学を果たされ、一先ず勝利を得られました。見えざるものとの闘いでありました。これからの学園生活は、専門として医学部門を学ぶ人間の生涯勉強の「一里塚」です。皆さんは、専門プロとしての生涯勉強のごく始まった道程だということです。大阪医科大学という船に乗った。だから、じっとしていたら「医学士」という学位資格を貰えるルートへ運んでくれて安心だと思わないで欲しいのであります。船の中での厳しいトレーニングをパスすることによって、また国家が認める基準をパスする学力の持ち主のみが、プロとしての皆さんの門出となることであります。

もう、明日から亀岡ハイツでオリエンテーションが始まります。何事も「初めが大切」であります。今は当分暗い面をみることなく、前を向いて、将来のための努力の第一歩を踏んで下さい。桜満開のこの時期は、君達を祝福してくれています。どうかこの感激を長く心に刻んで、

これからの6年、また大学院の学生諸君は4年間の学園生活を有意義に過ごして欲しいと存じます。

私は、本日の良き日に当たり、「懸命不動」と「国際化時代に役立つ良医」という創学精神を大事にして勉学に打ち込み、本学の支えとなって戴くことを望み、これをもって、皆さんの門出のお祝いの言葉と致します。

最後になりましたが、本日皆さんのご入学を祝い、その前途を祝福するためにお忙しい中をご臨席賜りましたご来賓、名誉教授、教授の諸先生方、並びに教職員の皆様に対しまして、心から感謝し、厚くお礼を申し上げる次第であります。

平成11年4月3日

大阪医科大学学長 藤本 守



最 終 講 義

本年3月、定年を迎えられた、哲学矢次正利教授、中央検査部堤啓教授、生物学岩崎尚彦教授、第3内科学河村慧四郎教授、眼科学東郁郎教授、第1内科学大澤仲昭教授の最終講義が、下記のとおり行われました。

< 哲学 矢次正利教授 >

1. 日時 2月4日(木) 11:00 ~ 12:10
1. 演題 『大阪医科大学での30年間の思い出』
1. 場所 さわらぎキャンパス第3講義室

筆者は昭和44年4月本学に着任以降、哲学ならびに社会学の講義を担当してきた。ここではその一端を粗描しておきたい。

哲学では主としてフランスの哲学者、ベルクソンとマルセルの思想、更にここ数年では医療倫理の問題をさまざまな観点から検討してきた。ベルクソンの哲学は、その4つの著作から明ら

かな如く、当時の心理学、大脳生理学、生物学、社会学などとの対決から形成されてゆく。その主旨は、時間の空間化、記憶の脳内局在説、機械論的進化論、社会有機体説についての批判的検討である。これらに通底するのは、16、17世紀以降の近代科学の分析的還元主義が物質の世界に対しては成功をおさめたが、精神的實在に関して妥当か否かの問いである。これに対してマルセルは、この精神的實在の探究に当って、科学的客観知(問題)とは異なる具体的人間の生とか死とか愛などの世界(秘義)にいかになち向うかが、キリスト教的三徳、希望、信仰、愛徳を指標として求められる。いわば、ベルクソンは科学との接点で思索するのに対し、マルセルはベルクソンの衣鉢を継ぎながらこれを宗教との接点で模索すると言える。次に医療倫理に関しては、これら哲学的思索をふまえて、いわゆる生命倫理の中で医療と人間の在り方がどのように考えられているか、具体例を通して考えることに主眼をおいた。

社会学では、西洋の近代化の流れとその現代的課題を、M・ウエーバー、E・フロム、オルテガを通して概観し、前述の生命倫理論争の背景にあるリベラリズムの思想的境位を、現代社会における人間疎外へと集約化することへと試みた。

30年という年月は、一見長いようにも思われ、また過ぎ去ってみれば短いものでもある。時代の転換期に当って、本学構成員の方々が、心豊かな医療人を育成し、その成果を世に問われることを願ってやまない。



＜中央検査部 堤 啓教授＞

1. 日時 2月17日(水) 14:00~15:30

1. 演題 『白鳥の歌』

1. 場所 臨床第1講堂

神経病理学の基本として、神経細胞の疾患では原因が判明しているスモンを、支持組織の疾患では細胞の同定が比較的容易なシュワン細胞を選んで、変性病変と腫瘍病変の見方について講義した。

I スモン

スモン剖検症例の神経組織が示す特異な所見は、1) 中枢と末梢の長索神経路の軸索が示す対称性の“dying-back neuropathy”と、2) 神経突起の糸輪様変化とグリオーシスを示して肉眼的には対称性に腫大した下オリブ核の病変との二つであって、既知の疾患としては、タリウム中毒の病理学的所見に酷似していた。この所見から、スモンを重金属中毒と考えて、岡山大学農学部 小林純教授に剖検組織内重金属の定性・定量をお願いしたが、既知の毒性元素や異常値を示す生体内元素は検出されなかった。

豊倉康夫らの患者で尿中に蓄積した緑色物質を調べた田村善三らは、それがキノホルムと3価の鉄イオンとのキレート化合物であることを証明した。

岡山県でのスモン剖検例で臨床記録が保管されていた28症例では、1) 神経症状発症までの期間と、2) 形態学変化としての dying-back neuropathy の強さとキノホルム投与量とがきれいな dose-response relationship を示していることがわかり、スモンはキノホルム中毒であると結論した。

スモンの原因探求において結論に到達するのに約15年、L. Berggren, と O. Hansson (1966) のキノホルム長期大量投与による中毒としての神経障害症例の報告からでも約4年の歳月を費やし、万余の患者を創り出した本邦医師・薬剤師の能力の低さを反省し、スモン剖検所見とタリウム中毒との類似性から、聖書の枠内でしか自然現象を解析できなかった中世の多くの科学者と同様に教科書の枠内に留まり、全ての元素の検出の必要性に思い至らなかった病理学者の残した轍を踏まないように心がけて欲しい。

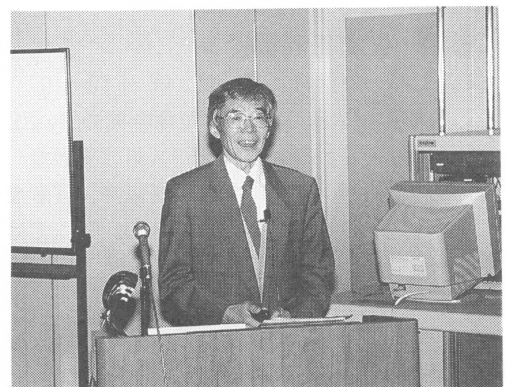
II. シュワン細胞腫

“Hamazaki-Wesenberg body” と呼ばれているリポフスチン-セロイドの褐色色素小体の最初の発見者である恩師 濱崎幸雄先生が、大学院での最初のテーマに選び教えて下さったのが「生体内色素の見方と鑑別診断」であったことが尾を引いていたらしく、シュワン細胞腫・間葉性腫瘍の鏡検時、腫瘍細胞の分化方向の同定に際していつの間にか、リポフスチン、時に、メラニンを持つ細胞としてシュワン細胞腫細胞を認識するようになっていた。

Pigmented schwannoma の像を示すことを手掛かりにして集めた胃のシュワン細胞腫を含めた自律神経分布領域に発生するシュワン細胞腫が Verocay 体形成を示さない現象を、有髄シュワン細胞が分布する脳脊髄神経発生のシュワン細胞腫がきれいな Verocay 体を形成することと対比して、無髄シュワン細胞の腫瘍であろうとの憶測は未だ実証出来ていない。

シュワン細胞腫の腫瘍細胞間に高度な粘液産生か浮腫があって、腫瘍細胞が疎に配列する3症例で、細胞の長軸から垂直に側方に上げられた3~4枚の翼状膜構造を示すことが確認できた。この細胞形態は、腱の腱細胞 Flügelselle や、4枚の翼状コルク質の樹皮を持つニシキギ euonymus alatus に似た立体構造である。

正常なシュワン細胞が基本的には神経軸索を「巻き寿司」のように巻き込んだ膜状構造の細胞であって、この3症例が示した翼状膜構造は、正常シュワン細胞類似の形態分化を示しているものと考えている。



<生物学 岩崎尚彦教授>

1. 日時 3月3日(水) 13:00~14:30

1. 演題 『沢良木の33年間』

1. 場所 臨床第1講堂

大阪医科大学進学課程(教養部)が設立された昭和40年から33年勤務して今年が定年である。教養部は既に33年間の役割を終えた。振り返ると、研究材料の淡水藻類シャジクモを初めて見たのは東京都立大学の学生時代だった。シャジクモ科植物の比較形態学の研究で理学博士の学位を取り、シャジクモの細胞生理学を研究するため阪大理学部神谷研究室に流動した。大阪医大に来てからはシャジクモの節と節間細胞の分化を調べるため顕微分光光度計で核のDNA量を測定した。巨大な節間細胞の大量の原形質を、人工細胞液中に採取して原形質滴とし、電極を挿入して刺激興奮性など電気的特性を種々測定した。最近ではシャジクモの細胞膜に存在する水チャンネルに着目し、水透過の95%は水チャンネルによることを調べ、1995年ドイツのレーゲンスブルクで発表した。以上の他、生物学教室では視細胞を中心とした視覚の研究、珪藻を指標にした水質汚濁の研究、汽水産シラタマモ節間細胞の膨圧調節機構の研究などを行っている。

生物学教育については、当初から細胞生物学、分子生物学を基本とした講義、実習を行った。当時の初期教育で、DNA、RNAやセントラルドグマなどを扱ったのは画期的な事だった。実習室で指導の為にテレビカメラとモニターを使用して視聴覚教育を開始したのは昭和48年だった。生物学教室では教室セミナーに学生を参加させ、輪読、実験、臨海実習、野外採集など多岐にわたる活動を行った。特に1974年長野県野尻湖で採集したホシツリモは、その後原産地では絶滅したが、20年後になって大阪医大で培養されていることが地元の人に判り株分けした。現在繁殖させ野尻湖に定着させる努力をしているとのことだが、「ホシツリモの里帰り」としてテレビ、新聞などで報道された。

進学課程のカリキュラムは教員連絡会、教養部会議で議論され決められ実施された。当初の全98単位必修から、提供120単位中80単位必修、

74単位必修と時代に従って緩和された。科目の新設、廃止、単位数の配分など、議論の為に資料収集、原案作成は教務委員として常時行った。学生部委員、入試委員も永いこと担当した。6年間一貫教育、医学教育改革などは1970年代初頭からのテーマで、ライフサイエンス、医学入門、早期医学体験学習、教養ゼミ等の発足には何時も協力を惜しかなかった。進学課程(教養部)が発展的解消を遂げた現在では昔日の感に耐えないが、懐かしいことである。

硬式庭球部の応援を教授就任以来20数年してきた。1986年からは部長をお引き受けした。夏の西日本医科学学生体育大会には毎年でかけた。テニスの試合では選手も応援団も一致協力して団体戦を戦う。真夏の朝9時コートに整列して対戦校チームと挨拶してから試合開始である。定年退職を新しい試合開始の気持ちで迎えたい。



<第3内科学 河村慧四郎教授>

1. 日時 3月3日(水) 15:00~16:30

1. 演題 『心筋症の基礎と臨床』

1. 場所 臨床第1講堂

心筋症は永年、原因不明の心筋疾患と定義され、肥大型、拡張型、拘束型の3大臨床病型に分類されてきた。しかし最近、分子生物学、分子遺伝学、免疫学などの先端技術の駆使により、次第に原因の糸口が明らかにされる趨勢にあり1995年、WHO/ISFC委員会は心筋症を心機能障害を伴う心筋疾患と定義しなおし、分類は従来の3病型のほか新たに不整脈原性右室心筋症を追加した。他方、わが国では昭和47年に厚生

省特定疾患特発性心筋症調査研究班が発足し現在に至るが当教室は当初より本研究班に所属し本症の基礎と臨床の研究を行って来た。

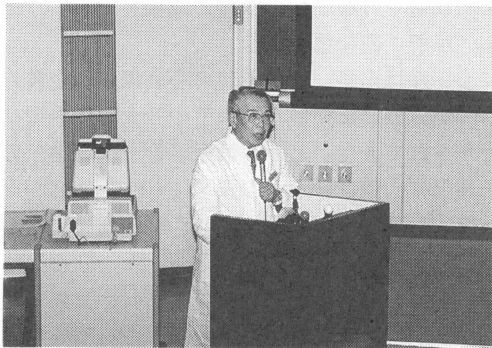
肥大型心筋症は常染色体優性遺伝による家族性発症が患者の約半数に認められる。最近、これらの家系のなかに心筋のサルコメアの遺伝子異常が病因であるものが見出され、その遺伝型の種類により臨床病態や自然歴などの表現型が異なることも明らかにされて来た。内科的治療が無効な閉塞性肥大型心筋症に対しては心房・心室順次ペーシングが奏功することがあり、心室中隔動脈へのエタノール注入も試みられる。

拡張型心筋症の治療は従来、心不全、不整脈、血栓塞栓症に対応したもので、特に慢性心不全の治療には近年諸種薬剤のランダム化比較試験の成績に基づき、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、利尿薬、ジギタリスさらに β 遮断薬、Ca遮断薬なども用いられる。重症例の心臓移植にはドナーが不足し Batista 手術が行われることがある。本手術で得られた左室筋には慢性心筋炎やコクサッキー B 群ウイルスゲノムが検出されることがあり、心筋症の成因への関与が示唆される。

拘束型心筋症は心室の拡張障害を特徴とし、家族性発症の場合、サルコメアの遺伝子異常を認めるものがあり肥大を伴わない肥大型心筋症である可能性が示唆される。

当教室ではミトコンドリア遺伝子異常と関連する心筋症症例も少なくなく臨床診断の糸口は生検心筋の電顕所見によることが多い。

心筋症はなお難病であり動物モデルを含めた基礎的研究が今後も必要である。



<眼科学 東 郁郎教授>

1. 日時 3月17日(水) 14:00~15:30

1. 演題 『緑内障の病態について』

1. 場所 臨床第1講堂

25年近く本学で眼科学を講義してきたが、その最終講義として私がライフワークとしてきた緑内障に関する研究と診療の進歩についてお話ししたい。

歴史的にみて病型の区別ができなかった19世紀初頭では、緑内障と眼圧亢進とは同義語であった。Helmholtz (1851) によって検眼鏡が導入されて近代眼科学が夜明けを迎えた。緑内障眼の視神経乳頭陥凹が von Graefe や Donders によって認められ、その後に眼圧計や視野計や隅角鏡などの検査機器が次々に開発されてきた。近年、特にレーザー、超音波、コンピューター機器の導入によって診断法は日々革新され留まるところを知らない。戦後、緑内障が隅角所見を基に病型分類されるようになり、緑内障の発症機序を巡る研究に拍車がかかったように思われる。房水循環動態や視神経乳頭における組織構造や細胞機能の生理学、生化学、病理学の知見が積み上げられた。更に疫学調査から遺伝子研究まで緑内障学の裾野が広がってきた。

私達の眼科学教室では治療面においては、縮瞳薬からプロスタグランジン関連の点眼薬まで種々の眼圧下降薬の開発に力を注いできた。近い将来には Ca 拮抗薬など血流改善、神経保護薬や遺伝子治療も展望されている。手術療法は古来虹彩切除術に始まり、種々の濾過手術が導入されてきたが、着任と共に顕微鏡手術を採り入れて、長期に亘る安全性と有効性が評価され定着してきた。最近の緑内障の病態についての



教室での研究成果を中心に、ビデオを交えて知見を述べたい。

緑内障による失明を防止するために今後も若い力による一層の診療の充実と研究の進展が期待される。

<第1内科学 大澤仲昭教授>

1. 日時 3月17日(水) 16:00~17:30

1. 演題 『神経・内分泌・免疫のトライアングルから見た内科学の進歩』

1. 場所 臨床第1講堂

生体の機能は、神経、内分泌、免疫の3つの系が、それぞれニューロトランスミッター、ホルモン、サイトカインという生理活性物質により相互に関連しながら調節されている。ここではこのトライアングルの立場から、内科学の進歩を、この10年間の第一内科学教室の歩みの中で振り返ってみた。

現在第一内科は、専門外来と20床前後の病床を持つ7つのユニット(内分泌代謝、呼吸器、神経、循環器、肝臓、膠原病、血液)と、2つの専門外来(脈管、漢方)とから構成されており、外来患者1日約280名、入院患者120~130名を診療しているが、これらの各部門を統一している考え方の一面が、神経・内分泌・免疫のトライアングルである。この立場から第一内科の研究成果を見てみると、Triple A 症候群(Adrenal Insuficiency, Alacrima, Achalasia)、NK細胞欠損症、新しいミトコンドリア遺伝子突然変異(8296 A→G)による糖尿病、劇症型A型レンサ球菌感染症による急性副腎不全、男子のエストロゲン欠乏による骨粗鬆症など多彩な新しい疾患が経験されている。サイトカイン、ホルモンに関しては、G-CSFに関する研究、IL-6産生腫瘍のヌードマウス移植株を用いた研究、ステロイド療法の薬理作用とホルモン作用の分離の研究、老化の指標としての副腎性男性ホルモン(DHEA-S)の研究と、それを用いる筋緊張性ジストロフィーの治療法の発見など多岐に渡っている。

これらの成果をふまえて、私達が追求してき

たのは、「疾患の治療ではなく、患者の医療を目指す」ことであった。全人的医療を考える際には、西洋医学と全く異なる体系を持つ東洋医学も重要な役割を果たすと考えられる。

生体機能を神経・内分泌・免疫のトライアングルを通じての調節から見る立場は、疾患を統一的に見、患者の医療を進める上で大きな意義を有するものと考えられる。



看護専門学校長に就任して

勢川 瑠美子



この度、平成11年4月1日付で大阪医科大学附属看護専門学校長を拝命いたしました。本校を卒業し、6年後に母校の専任教員として20年近く基礎教育の場で教鞭をとってきました私にとりまして、終楽章に近くなりました今、学校長として看護教育に携わることが出来ますことはこの上もない幸せであります。この機に当り、今、看護教育に求められていることを再考する必要があると感じております。

医学、医療の進歩と共に看護婦に求められる看護の知識や技術の水準はいっそう高まっています。専門学校卒業者の大学編入、看護大学の新設、増設、少子社会による18才人口の減少、さらには看護に対する社会のニーズの拡大と、看護教育をとり巻く環境は大きく変りつつあります。この変化に対応するために看護教育に求められていることは、基本的にはこれまでと変わるものではありませんが、より一層高度な専門職と豊かな人間性を育てることにあると考えております。高学歴でプライドをもつことが、患者さんのケアを行なう姿勢や心遣いを低下させるようなことにならないように、究極的には、人間的な温かい触れあいがなければ、ケアという行為は成り立ちません。一方、人間性を育てることについても、人が人を世話することは、医師であれ、看護婦であろうと、技術をもっていればよいわけではありません。技術とは、あくまで人間性の上に乗って始めて意味をもつわけですから、より高く深い識見をもつ、成熟したパーソナリティの実現こそが人間としての深まりを伴うことになると考えます。

未来に向けての本校の看護教育のありようも資質を高めるために大学へ発展させることは必定でありましょう。そのためにも、これからの教育の実をあげるために、看護専門学校教員一同努力を惜しむことなく、一致協力してその任務にかかわりますことは勿論のことですが、学校法人をはじめ大学医学部、附属病院看護部の方々のご協力、ご教示を宜しくお願い申し上げます。

プロフィール

- 昭和9年11月生れ
- 平成11年3月 大阪教育大学大学院修士課程修了
- 昭和27年4月 大阪医科大学附属病院入職
 - ◇ 37年4月 大阪医科大学附属看護専門学校教務主任
 - ◇ 52年12月 大阪医科大学附属病院看護婦長
 - ◇ 57年6月 大阪医科大学附属病院看護副部長
 - ◇ 62年4月 大阪医科大学附属病院看護部長
- 平成6年6月 学校法人大阪医科大学評議員
 - ◇ 10年1月 大阪医科大学事務局次長
 - ◇ 11年4月 大阪医科大学附属看護専門学校長
学校法人大阪医科大学理事

新任教授紹介

眼科学講座



池田 恒彦 (43歳)

1981年

慶応義塾大学医学部

卒業

1981年

慶応義塾大学限科

1985年

国立大阪病院眼科

- 1990年 大阪大学助手 (眼科学)
- 1993年 米国ミシガン大学研究員 (眼科学)
- 1994年 京都府立医大講師 (眼科学)
- 1995年 京都府立医大助教授 (眼科学)
- 1999年 大阪医科大学教授 (眼科学)

この度、東郁郎教授の後任として、4月1日より眼科学講座を担当させて頂くことになりました。きたる21世紀に向けて大学の新たな運営を望まれる時期に就任し、その重責に身のひきしまる思いであります。

私は1981年に慶応義塾大学医学部を卒業後、慶応義塾大学眼科、大阪大学眼科、国立大阪病院、京都府立医大限科にて、主に網膜硝子体疾患の手術治療を中心とする臨床研究に従事して参りました。専門は増殖糖尿病網膜症や網膜剥離などの網膜硝子体疾患に対する網膜硝子体手術であり、この手術は1980年代から本邦においても飛躍的に進歩した領域であります。しかし、現時点でも治療成績に関してはまだまだ満足できる状況ではなく、これらの疾患の病態を分子レベルで解明

し、新たな治療法に結び付けていくことが急務であると考えております。

以前より、臨床と平行して、これらの網膜硝子体疾患の病態に深く関与する網膜グリア細胞の基礎的研究を進めております。そして今までにミシガン大学眼科の Donald G. Puro 教授との共同研究で、網膜グリア細胞がこれらの疾患における眼内増殖、血管新生、ニューロン保護など種々の病態に深く関与していることを明らかにしてきました。将来、これらの基礎的データを実際の臨床の場で応用する方向で研究を進めております。

眼科学は臨床の科であり、網膜硝子体の領域に限らず、種々の領域で基礎研究と臨床研究を互いに結びつけ、新しい知見、新しい治療の発見に繋げていかなくはなりません。そのためには、国内だけでなく国際的にも活躍できる若い医師を数多く育成することが急務であると考えます。そのためにはまず大学、関連病院、同窓会の先生方とも協力しながら教室内外の若手医師の教育を実りあるものとし、次世代の医師に限科学に対する興味と情熱をより一層持つてもらうことが大切であると思います。臨床医として、日頃の診療で得られる素朴な疑問を大切に、今、臨床で何が重要な問題なのかを十分に議論しながら、正しいコンセプトを持ち、21世紀に向けた新しい活気に満ちた眼科学教室を作っていきたいと考えております。

規 程 関 係

学校法人大阪医科大学事務局の組織並びに事務分掌規程の一部改正について

経営の効率化および患者サービスの向上を目的に、学校法人大阪医科大学事務局の組織並びに事務分掌規程が次のとおり改正されました。

(関係条文新旧対照表)

新	旧
<p>(組 織)</p> <p>第1条 本学事務局に総務部、財務部、病院事務部、同薬剤部、同看護部を置き、夫々の部に次の課を置く。</p> <p>(中略 ※ 総務部、財務部、病院事務部、同看護部については変更なし)</p> <p style="padding-left: 20px;"><u>病院薬剤部</u> <u>薬剤課</u></p>	<p>(組 織)</p> <p>第1条 本学事務局に総務部、財務部、病院事務部、同薬剤部、同看護部を置き、夫々の部に次の課を置く。</p> <p>(中略※ 総務部、財務部、病院事務部、同看護部については変更なし)</p> <p style="padding-left: 20px;"><u>病院薬剤部</u> <u>薬剤課</u> <u>製剤薬品情報課</u> <u>薬品管理課</u> <u>薬務管理課</u></p>
<p>(事務分掌)</p> <p>第3条 各課においては、次の事務をつかさどる。</p> <p>(中略 ※ 総務部、財務部、病院事務部、同看護部については変更なし)</p> <p><u>病院薬剤部</u> 1 外来及び入院患者の調剤業務に関すること。</p> <p style="padding-left: 40px;">2 薬品の購入、管理に関すること。</p> <p style="padding-left: 40px;">3 製剤及び薬品情報、試験に関すること。</p> <p><u>薬 剤 課</u> 1 部内の事務計画・予算・人事及び庶務的事項に関すること。</p>	<p>(事務分掌)</p> <p>第3条 各課においては、次の事務をつかさどる。</p> <p>(中略 ※ 総務部、財務部、病院事務部、同看護部については変更なし)</p> <p><u>病院薬剤部</u></p> <p style="padding-left: 20px;"><u>薬 剤 課</u> 1 外来及び入院患者の調剤業務に関すること。</p> <p style="padding-left: 20px;"><u>製剤薬品情報課</u> 1 製剤及び薬品情報、試験に関すること。</p> <p style="padding-left: 20px;"><u>薬 品 管 理 課</u> 1 薬品の購入、管理に関すること。</p> <p style="padding-left: 20px;"><u>薬 務 管 理 課</u> 1 薬剤部の庶務的事項に関すること。</p>

医学情報処理センター規程の一部改正について

医学情報処理センター規程の一部が次のとおり改正されました。

医学情報処理センター規程第4条(運営委員会)の(3)の後に(4)として次の一文を挿入する。

(4) 図書館および病院医療情報部の教員または職員から各1名(計2名)

大阪医科大学ハイテク・リサーチ・センター関連規程および細則について

大阪医科大学ハイテク・リサーチ・センターの設立に伴い、関連規程および細則が次のとおり施行されました。

大阪医科大学ハイテク・リサーチ・センター規程

(設置および目的)

第1条 大阪医科大学は高度先進医学研究に関する事業を整備し、新技術・新薬などの開発や応用について推進を図るため、大学院医学研究科にハイテク・リサーチ・センター（以下「センター」という）を設置する。

(利用の許可および資格)

第2条 利用者は本学に在籍する教職員並びに大学院生、研究生とする。学生研究員は教員の指導のもとにその利用を許可する。

2 その他センター長が認めたもの。

(センター長、副センター長)

第3条 センターに、ハイテク・リサーチ・センター長（以下「センター長」という。）および副センター長を置く。

2 センター長は学長の監督のもとにセンターの業務を掌握する。

3 副センター長はセンター長を補佐しセンターの業務を処理する。

4 センター長の選考に関し必要な事項は別に定める。

(運営委員会)

第4条 センターの管理運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という）を置く。

2 運営委員会の組織および運営については別に定める。

(委員会の構成)

第5条 この規程に定めるものの他に、センターに関して必要な事項は別に定める。

大阪医科大学ハイテク・リサーチ・センター運営委員会規則

(趣 旨)

第1条 この規程は、大阪医科大学ハイテク・リサーチ・センター（以下「センター」という）規程第4条第1項の規程に基づき、ハイテク・リサーチ・センター運営委員会（以下「運営委員会」という）に関し必要な事項を定める。

(協議事項)

第2条 運営委員会は、センターの管理と運営に関する次の事項を協議する。

1 高度先進医学に係る事業計画に関すること。

2 センターの研究設備の運営に関すること。

3 センターの研究費の配分を決めること。

4 外部組織からの委託研究及び寄付に関すること。

5 その他、関連する事業に関すること。

(組織等)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

1 ハイテク・リサーチ・センター長（以下「センター長」という）

- 2 副センター長
- 3 大学院医学研究科各研究室より1名選出された運営委員
- 4 センター長より推薦された者 若干名

- 2 第3項の委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 3 前項の委員は再任されることが出来る。

(委員長等)

- 第4条** 運営委員会に委員長および副委員長を置き、各々センター長、副センター長をもって充てる。
- 2 委員長は、運営委員会を召集しその議長となる。
 - 3 副委員長は、委員長を補佐し委員長に事故ある時はその職務を代行する。

(議事)

- 第5条** 運営委員会は、委員の過半数の出席（委任状を含む）により議事を開く。
- 2 採決を要するときは出席委員の過半数の賛否により決し、可否同数のときは議長が決する。
- 第6条** 委員長は、必要があると認めるときは委員会の承認を得て委員以外の出席を求め、説明又は意見を聴取することが出来る。
- 2 委員会は、必要に応じて小委員会を設けることができる。

(顧問)

- 第7条** センターは、必要に応じて顧問を置くことができる。

(補足)

- 第8条** この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は委員長が別に定める。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

大阪医科大学ハイテク・リサーチ・センター長選考規程

- 第1条** この規程は大阪医科大学ハイテク・リサーチ・センター（以下「センター」という）規程第3条第1項の規程に基づき、センター長（以下「センター長」という）の選考に関し必要な事項を定める。
- 第2条** センター長候補者の選考は、本学教授のうちからセンター運営委員会の推薦に基づき、大学院医学研究科委員会が行う。
- 第3条** 大学院医学研究科委員会は次の各号の一に該当する場合にセンター長候補者の選考を行う。
- 1 センター長の任期が満了した時
 - 2 センター長が辞任を申し出、受理された時
 - 3 センター長が欠員となった時
- 2 センター長候補者の選考は、前項第1号の場合は原則として任期満了の1ヶ月前に、同項第2号、第3号の場合は、その事由を生じた時、速やかに行うものとする。
- 第4条** センター長の任期は2年とし再任を妨げない。ただし連続4年をこえることができない。
- 2 副センター長は、センター長が推薦し大学院医学研究科委員会が承認した教授が兼任する。その任期は2年とし再任を妨げない。

人 事

〔定年退職者〕

本年3月31日をもって定年を迎えられたのは以下の方々です。

教 授	岩崎 尚彦 (生物学)	看護事務員	西村 季子 (病院看護部)
〃	矢次 正利 (哲学)	病院薬剤部長兼 薬剤課長	伊藤 博 (病院薬剤部)
〃	大澤 仲昭 (内科学Ⅰ)	技 師 長	飴谷 昭治 (リハビリテーション科)
〃	河村慧四郎 (内科学Ⅲ)	用 務 員	岸川 義實 (総務部 庶務課)
〃	東 郁郎 (眼科学)	〃	安永 良孝 (〃)
診療教授	堤 啓 (中央検査部)	〃	林 美津子 (病院事務部 用度課)
助 教 授	栗本 宗治 (中央手術室)	看護婦	藤川 理 (病院看護部)
		看護補助員	井部やす子 (〃)
		〃	山下 正子 (〃)
		〃	坂本利都子 (〃)



〔法 人〕

退 任		
監 事	上田 次郎	3.31
就 任		
理 事	勢川瑠美子	4. 1
監 事	家原 利兼	〃

〔採 用〕

看護婦	岡野 照美 (病院看護部)	2.16
助 手	新井 基弘 (脳神経外科学)	3. 1
技能員	小保方信喜 (病院事務部 栄養給食課)	3.16
教 授	池田 恒彦 (眼科学)	4. 1
講 師	柴田 雅朗 (解剖学Ⅰ)	〃
助 手	阿部 英明 (〃)	〃
〃	日下部 健 (〃)	〃
〃	山田真由美 (薬理学)	〃
〃	河野 武弘 (微生物学)	〃
〃	村上 康弘 (内科学Ⅰ)	〃
〃	塩崎 道明 (内科学Ⅱ)	〃
〃	宗宮 浩一 (内科学Ⅲ)	〃
〃	瀧谷 公隆 (小児科学)	〃
〃	酒井 雅人 (麻酔科学)	〃
〃	出馬 晋二 (産婦人科学)	〃
〃	細谷 俊光 (〃)	〃
〃	小宗 弘幸 (形成外科学)	〃
〃	有坂 好史 (附属病院)	〃
〃	大谷 昌裕 (〃)	〃

助 手	加藤 洋 (リハビリテーション科)	4. 1
〃	小川 哲 (周産期センター)	〃
〃	平野 量哉 (〃)	〃
外国人教員	金 徳男 (薬理学)	〃
事 務 員	本田 紀子 (法医学教室)	〃
〃	齋藤 美彩 (総務部 庶務課)	〃
看護事務員	村井 基子 (病院看護部)	〃
〃	上原 美和 (〃)	〃
〃	大西 麻美 (〃)	〃
〃	塚本 智恵 (〃)	〃
〃	中村由紀恵 (〃)	〃
〃	西 絵梨香 (〃)	〃
〃	林 めぐみ (〃)	〃
〃	藤本 美紀 (〃)	〃
技 術 員	高田 春彦 (放射線科)	〃
〃	森永 泉美 (〃)	〃
〃	田中 貴広 (リハビリテーション科)	〃
嘱 託	三笠 昭三 (法医学教室)	〃
〃	三村 勇 (総務部 庶務課)	〃
〃	塩崎 茂美 (病院事務部 栄養給食課)	〃
看護婦	青山 郁子 (病院看護部)	〃
〃	綾野 真矢 (〃)	〃
〃	今井 裕美 (〃)	〃
〃	牛島 美華 (〃)	〃
〃	大杉留美子 (〃)	〃
〃	大西 由香 (〃)	〃

看護婦	岡陽子 (病院看護部)	4. 1	看護婦	高橋麻衣子 (病院看護部)	4. 1
〃	河口美幸 (〃)	〃	〃	中川智津子 (〃)	〃
〃	川島梨加 (〃)	〃	〃	中島明美 (〃)	〃
〃	川名順子 (〃)	〃	〃	中西久美子 (〃)	〃
〃	河村美加 (〃)	〃	〃	日南淳子 (〃)	〃
〃	菊地扶左子 (〃)	〃	〃	廣瀬美希 (〃)	〃
〃	木場美由紀 (〃)	〃	〃	増本幸 (〃)	〃
〃	木村裕美 (〃)	〃	〃	丸山公子 (〃)	〃
〃	木村ルミ子 (〃)	〃	〃	山岡ひとみ (〃)	〃
〃	坂本裕美 (〃)	〃	〃	新井美智子 (〃)	〃
〃	柴田真衣子 (〃)	〃	〃	池内純子 (〃)	〃
〃	清水晴美 (〃)	〃	〃	池田真紀 (〃)	〃
〃	白石日見子 (〃)	〃	〃	乾澤和美 (〃)	〃
〃	谷洋世 (〃)	〃	〃	井上さよ (〃)	〃
〃	谷塚瑠佳 (〃)	〃	〃	栄山直美 (〃)	〃
〃	土山佳子 (〃)	〃	〃	太田未 (〃)	〃
〃	中西なおみ (〃)	〃	〃	大貫真理子 (〃)	〃
〃	中村友子 (〃)	〃	〃	大庭光世 (〃)	〃
〃	成重千里 (〃)	〃	〃	小野祥代 (〃)	〃
〃	野村貴子 (〃)	〃	〃	上山友紀 (〃)	〃
〃	蜂屋貴子 (〃)	〃	〃	川口晴子 (〃)	〃
〃	番聡子 (〃)	〃	〃	川崎恵美 (〃)	〃
〃	船木真寿美 (〃)	〃	〃	岸涼子 (〃)	〃
〃	前田志穂 (〃)	〃	〃	木下海子 (〃)	〃
〃	松野木千鶴 (〃)	〃	〃	久留須悦子 (〃)	〃
〃	三村真由子 (〃)	〃	〃	車田友美 (〃)	〃
〃	山内幸代 (〃)	〃	〃	源田美香 (〃)	〃
〃	吉岡恵子 (〃)	〃	〃	坂口有紀子 (〃)	〃
〃	吉田真寿美 (〃)	〃	〃	清家洋子 (〃)	〃
〃	渡邊愛 (〃)	〃	〃	園田智子 (〃)	〃
〃	和田里美 (〃)	〃	〃	田中和恵 (〃)	〃
〃	阿部沙織 (〃)	〃	〃	谷口邦江 (〃)	〃
〃	安部奈緒子 (〃)	〃	〃	塚本千津子 (〃)	〃
〃	井口幸 (〃)	〃	〃	佃典子 (〃)	〃
〃	大藺直子 (〃)	〃	〃	殿元由美 (〃)	〃
〃	尾崎景 (〃)	〃	〃	中川幸子 (〃)	〃
〃	金倉葉子 (〃)	〃	〃	中道裕美 (〃)	〃
〃	辛嶋裕子 (〃)	〃	〃	仲村渠千尋 (〃)	〃
〃	川上真幸 (〃)	〃	〃	西山順子 (〃)	〃
〃	河口愛子 (〃)	〃	〃	野口圭子 (〃)	〃
〃	児玉愛 (〃)	〃	〃	藤原奈緒 (〃)	〃
〃	馬屋原美恵子 (〃)	〃	〃	前田さをり (〃)	〃
〃	城田知美 (〃)	〃	〃	松尾智美 (〃)	〃
〃	杉浦由紀 (〃)	〃	〃	松田しのぶ (〃)	〃
〃	杉田由佳 (〃)	〃	〃	松田芽子 (〃)	〃
〃	高田尚子 (〃)	〃	〃	丸山尚子 (〃)	〃

看護婦	下園 陽子 (病院看護部)	3.31
〃	辻井 則子 (〃)	〃
〃	鶴川 香織 (〃)	〃
〃	寺井 絵美 (〃)	〃
〃	橋本 知恵 (〃)	〃
〃	堺 美紀 (〃)	〃
〃	細川 典子 (〃)	〃
〃	松本さおり (〃)	〃
〃	浅田 祐加 (〃)	〃
〃	市岡 裕子 (〃)	〃
〃	江藤 陽子 (〃)	〃
〃	小川久美子 (〃)	〃
〃	近藤 恭子 (〃)	〃
〃	首藤 雅枝 (〃)	〃
〃	中井 美果 (〃)	〃
〃	中村 多恵 (〃)	〃
〃	長家英紀子 (〃)	〃
〃	西村あすか (〃)	〃
〃	原田美恵子 (〃)	〃
〃	藤本 香織 (〃)	〃
〃	牧園 純子 (〃)	〃
〃	松永 光代 (〃)	〃
〃	山崎 郷子 (〃)	〃
〃	若林 希美 (〃)	〃
〃	肝付 晶子 (〃)	〃
〃	上田 有加 (〃)	〃
〃	白石 夏美 (〃)	〃
〃	渡邊 美穂 (〃)	〃
〃	辻本 裕美 (〃)	〃
〃	西村 光代 (〃)	〃
〃	濱中夕起子 (〃)	〃
〃	福野 知美 (〃)	〃
〃	大谷 里美 (〃)	〃
〃	小林美香子 (〃)	〃
〃	高橋 雅代 (〃)	〃
〃	山下 千秋 (〃)	〃
〃	當田なほみ (〃)	〃
看護婦 (短時間雇用職員)	飯田 美子 (〃)	〃
准看護婦	太田 和枝 (〃)	〃
〃	宗像さとみ (〃)	〃
〃	牧 幸子 (〃)	〃
看護補助員	橋口フジエ (〃)	〃
〃	藤野 和江 (〃)	〃
保 母	松阪麻美子 (〃)	〃

助手	森脇 恵太 (脳神経外科学)	4.30
看護婦	田池 泰子 (病院看護部)	〃

〔昇任〕

リハビリテーション科 技 師 長	八幡 元清 (リハビリテーション科 技師長代理)	4. 1
看護部長代理兼 看護副部長	神谷美佐子 (看護副部長)	〃
病院看護部 看護婦長	東 典子 (看護婦長代理)	〃
〃	畑 恵津子 (〃)	〃
〃	牟禮 洋子 (〃)	〃
病院看護部 看護婦長代理	西村 尚子 (看護婦主任)	〃
〃	江口 博美 (〃)	〃
〃	由藤久美子 (〃)	〃
〃	久永美智子 (〃)	〃
病院看護部 看護士長代理	辻尾 敦宏 (看護士主任)	〃
病院看護部 看護婦主任	内田 和栄 (看護婦主任代理)	〃
〃	小谷 英子 (〃)	〃
病院看護部 看護婦主任代理	上田 千鶴 (看護婦 臨床指導者)	〃
〃	吉田さとみ (〃)	〃
〃	藤原 寛子 (〃)	〃
〃	浅井 明美 (〃)	〃
〃	荻谷 智子 (〃)	〃
〃	根口美由紀 (看護婦)	〃
〃	高田 仁美 (〃)	〃
〃	田中 弘恵 (〃)	〃
〃	村岸 明美 (〃)	〃
〃	鈴江 和枝 (〃)	〃
病院看護部 臨床指導者	糸島 陽子 (看護婦 臨床指導者代理)	〃
〃	川上 民代 (〃)	〃
〃	小又眞有美 (〃)	〃
病院看護部 臨床指導者代理	松本 加奈 (看護婦)	〃
〃	枇杷 幸代 (〃)	〃
〃	河島 美幸 (〃)	〃
〃	増田裕美子 (〃)	〃
〃	大黒 紀子 (〃)	〃
〃	高橋 育子 (〃)	〃
病院看護部 看護婦	清田 紗織 (准看護婦)	〃
〃	前田 美貴 (〃)	〃

〔異 動〕

事務局次長の 任を解く	勢川瑠美子	(事務局次長兼 看護部長)	3.31
病理学Ⅰ師 講	福西 恵一	(中央検査部) 講 師	4. 1
内科学Ⅱ 助 手	森川 浩志	(附属病院) 助 手	〃
産婦人科学 助 手	植木 健	(周産期センター) 助 手	〃
周産期センター 助 手	森信 孝雄	(小児科学) 助 手	〃
〃	折野 一郎	(産婦人科学) 助 手	〃
総務部庶務課 事 務 員	渡部奈々江	(解剖学Ⅰ) 技 術 員	〃
病院事務部管理課 事 務 員	大下 泰美	(病院事務部事務第一課) 事 務 員	〃
病院事務部用度課 用 務 員	河嶋 榮子	(病院看護部) 准看護婦	〃
病院事務部栄養給食課 技能員(調理師)	上田 和子	(病院事務部栄養給食課) 用 務 員	〃
病院薬剤部長付 薬剤部長代理兼課長	足立 憲彦	(病院薬剤部長代理) 兼薬剤課長	〃
病院薬剤部長付 課 長	福岡 栄介	(病院薬剤部) 製剤薬品情報課長	〃
〃	秋田 菊代	(病院薬剤部) 薬品管理課長	〃
病院薬剤部 薬 剤 課 長	竹村喜一郎	(病院薬剤部) 薬務管理課長	〃
病院薬剤部長付 課 長 代 理	中尾伊都子	(病院薬剤部製剤薬 品情報課長代理)	〃
〃	安藤 陽子	(病院薬剤部) 製剤課長代理	〃
病院薬剤部長付 課 長 補 佐	桑村 賀子	(病院薬剤部製剤薬 品情報課長補佐)	〃
〃	西橋 正芳	(病院薬剤部) 薬剤課長補佐	〃
〃	上田 倫子	(病院薬剤部製剤薬 品情報課長補佐)	〃
〃	木山 治	(病院薬剤部薬品 管理課長補佐)	〃
〃	若林 啓子	(病院薬剤部薬務 管理課長補佐)	〃
〃	傍島 悦子	(〃)	〃
病院薬剤部長付 主 任	中井 裕士	(病院薬剤部) 薬剤課主任	〃
〃	竹原 富夫	(〃)	〃
〃	北川 俊史	(〃)	〃
〃	鈴木 薫	(病院薬剤部製剤 薬品情報課主任)	〃

なお、病院薬剤部薬剤課、製剤薬品情報課、薬品管理課の各課に属す技術員及び事務員は薬剤部長付技術員、同事務員とする。

病院看護部 事務主任	松岡 道弘	(病院看護部) 主 任	4. 1
病院看護部 臨床指導者	黒岩 真紀	(附属看護専門学校) 専任教員	〃
〃	谷口真理子	(〃)	〃
附属看護専門学校 専任教員	川西いづみ	(病院看護部) 臨床指導者	〃
〃	山川 由加	(〃)	〃
〃	佐藤真由美	(病院看護部) 臨床指導者代理	〃
附属看護専門学校 事務員	河内 紀子	(総務部庶務課) 事務員	〃

〔休職・復職〕

(休 職)			
看護 婦	柴田真衣子	(病院看護部)	4. 6
〃	石原真理子	(〃)	4. 7
助 手	白田 寛	(衛生学・公衆衛生学)	5. 1
(復 職)			
看護 婦	神原 美保	(病院看護部)	3.15

〔委嘱・解嘱〕

(委 嘱)			
附属看護専門学校長			
看護部長	勢川瑠美子	(病院看護部)	4. 1
学生部長			
教 授	島田 眞久	(解剖学Ⅱ)	4. 1
病院薬剤部長			
教 授	竹中 洋	(耳鼻咽喉科学)	4. 1
中央手術部長			
教 授	森 秀磨	(麻酔科学)	4. 1
機器共同利用センター長			
教 授	今井 雄介	(生理学Ⅰ)	4. 1
機器共同利用センター副センター長			
教 授	竹中 洋	(耳鼻咽喉科学)	4. 1
医学情報処理センター長			
教 授	玉井 浩	(小児科学)	4. 1
医学情報処理センター副センター長			
教 授	鈴木 廣一	(法医学)	4. 1
実験動物センター長			
教 授	芝山 雄老	(病理学Ⅰ)	4. 1
ハイテク・リサーチ・センター長			
教 授	玉井 浩	(小児科学)	4. 1
主任健康管理医兼主任衛生管理者			
講 師	北岡 治子	(内科学Ⅰ)	4. 1
健康管理医兼衛生管理者			
助 手	福田 泰樹	(内科学Ⅰ)	4. 1

学内講師

助 手	滝内比呂也 (内科学Ⅱ)	4. 1
〃	久保田次郎 (内科学Ⅲ)	〃
〃	今中 政支 (耳鼻咽喉科学)	〃
〃	林 伊吹 (〃)	〃
〃	白井 久也 (整形外科)	4.16

学長予定者選挙管理委員会委員

教 授	宮崎 瑞夫 (薬理学)	2. 3
〃	米田 博 (神経精神医学)	〃
〃	清金 公裕 (皮膚科学)	〃
〃	竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)	〃
助 教 授	伊東 重徳 (化学)	〃
〃	森松 伸一 (微生物学)	〃
〃	中川 俊正 (病態検査学)	〃
〃	島田 恭光 (リハビリテーション科)	〃
講 師	渡邊 房男 (化学)	〃
〃	中張 隆司 (生理学Ⅰ)	〃
〃	前田 環 (病理学Ⅱ)	〃
〃	余田 篤 (小児科学)	〃
助 手	石井 誠志 (医化学)	〃
〃	高谷 竜三 (小児科学)	〃
〃	南 昌宏 (整形外科)	〃
〃	野中隆三郎 (耳鼻咽喉科学)	〃

新総合棟 (7号館) 建築実務委員会委員

理 事 長	田中 忠彌	2. 9
理 事	美濃 眞	〃
附属病院長	佐々木進次郎 (胸部外科学)	〃
教 授	植木 實 (産婦人科学)	〃
〃	谷川 允彦 (一般・消化器科)	〃
助 教 授	高松 順太 (内科学Ⅰ)	〃
〃	北浦 泰 (内科学Ⅲ)	〃
事務局次長兼 看護部長	勢川瑠美子 (事務局)	〃
病院事務部長 代理兼用度課長	橋口 直栄 (病院事務部)	〃
課 長	成松 正治 (総務部庶務課)	〃
〃	楠元 肇 (病院事務部 施設課)	〃
企画室長代理	久保 克己 (総務部企画室)	〃

学長予定者選挙管理委員会委員長

教 授	清金 公裕 (皮膚科学)	2.19
-----	--------------	------

学長予定者選挙管理委員会副委員長

教 授	米田 博 (神経精神医学)	2.19
-----	---------------	------

医療材料選定委員会委員長

医療材料に関する 小委員会委員長 教 授	谷川 允彦 (一般・消化器科)	2.25
----------------------------	-----------------	------

医療材料選定委員会委員

助 教 授	木下 光雄 (整形外科)	2.25
〃	草壁 秀成 (皮膚科学)	〃
〃	上田 陽彦 (泌尿器科学)	〃
〃	後山 尚久 (産婦人科学)	〃
〃	山本 隆一 (病院医療情報部)	〃
診療助教授	石原 正 (内科学Ⅰ)	〃
講 師	出口 寛文 (内科学Ⅲ)	〃
看護副部長	小林千恵子 (病院看護部)	〃
課長代理	福島 猛 (病院事務部 医事第一課)	〃
課長補佐	権藤 眞治 (病院事務部 用度課)	〃
技師長補佐	濱田 松治 (放射線科)	〃
主 任	松岡 道弘 (病院看護部)	〃

倫理委員会委員長

教 授	楢林 勇 (放射線医学)	4. 1
-----	--------------	------

学生部委員会委員

教 授	千原精志郎 (心理学)	4. 1
〃	古谷 榮助 (化学)	〃
〃	山崎 隆司 (ドイツ語)	〃
〃	大槻 勝紀 (解剖学Ⅰ)	〃
〃	窪田 隆裕 (生理学Ⅱ)	〃
〃	芝山 雄老 (病理学Ⅱ)	〃
〃	佐野 浩一 (微生物学)	〃
〃	鈴木 廣一 (法医学)	〃
〃	米田 博 (神経精神医学)	〃
〃	玉井 浩 (小児科学)	〃
〃	阿部 宗昭 (整形外科)	〃
〃	勝岡 洋治 (泌尿器科学)	〃
〃	竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)	〃

大学院医学研究科委員会小委員会委員

教 授	大槻 勝紀 (解剖学Ⅰ)	4. 1
〃	宮崎 瑞夫 (薬理学)	〃
〃	芝山 雄老 (病理学Ⅰ)	〃
〃	玉井 浩 (小児科学)	〃
〃	谷川 允彦 (一般・消化器科)	〃
〃	竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)	〃

大学院医学研究科委員会小委員会委員長

教 授	宮崎 瑞夫 (薬理学)	4. 1
-----	-------------	------

実験動物センター運営委員会委員

実験動物センター長 教 授	芝山 雄老 (病理学Ⅰ)	4. 1
助 教 授	吉田龍太郎 (生理学Ⅱ)	〃
講 師	高井 真司 (薬理学)	〃
〃	福西 恵一 (病理学Ⅰ)	〃
学内講師	境 晶子 (化学)	〃

助 手 福田 泰樹 (内科学Ⅰ) 4. 1

動物実験委員会委員

実験動物センター長 芝山 雄老 (病理学Ⅰ) 4. 1

教 授 今井 雄介 (生理学Ⅰ) ♪

♪ 宮崎 瑞夫 (薬理学) ♪

助 教 吉田龍太郎 (生理学Ⅱ) ♪

講 師 福西 恵一 (病理学Ⅰ) ♪

名誉教授 岩崎 尚彦 ♪

**BULLETIN OF THE OSAKA MEDICAL COLLEGE
編集委員会委員**

教 授 今井 雄介 (生理学Ⅰ) 4. 1

♪ 大槻 勝紀 (解剖学Ⅰ) ♪

♪ 窪田 隆裕 (生理学Ⅱ) ♪

♪ 鏡山 博行 (医化学) ♪

♪ 芝山 雄老 (病理学Ⅱ) ♪

♪ 河野 公一 (産学・公衆衛生学) ♪

♪ 玉井 浩 (小児科学) ♪

♪ 勝岡 洋治 (泌尿器科学) ♪

♪ 清水 章 (病態検査学) ♪

♪ 田嶋 定夫 (形成外科学) ♪

診療教授 福田 市藏 (内科学Ⅰ) ♪

助 教 高松 順太 () ♪

医学情報処理センター運営委員会委員

医学情報処理センター長 玉井 浩 (小児科学) 4. 1

センター副センター長 鈴木 廣一 (法医学) ♪

教 授 竹中 洋 (耳鼻咽喉科学) ♪

助 教 西村保一郎 (数 学) ♪

♪ 林 秀行 (医化学) ♪

平成11年度同和教育推進委員会委員

教 授 土井 一宏 (英 語) 4. 1

♪ 窪田 隆裕 (生理学Ⅱ) ♪

♪ 谷川 允彦 (一般・消化器科学) ♪

助 教 安田 峯子 (数 学) ♪

♪ 竹田 喜信 (内科学Ⅱ) ♪

講 師 伊藤 裕子 (解剖学Ⅰ) ♪

学内講師 森田智津子 (微生物学) ♪

助 手 田村 明敬 (法医学) ♪

♪ 岡本 順子 (胸部外科学) ♪

課 長 西田 伸忠 (総務部教務課) ♪

♪ 吉間 正男 (病院事務部管理課) ♪

平成11年度同和教育推進委員会委員長

教 授 土井 一宏 (英 語) 4.21

治験審査委員会委員長

教 授 宮崎 瑞夫 (薬理学) 4. 1

治験審査委員会委員

教 授 玉井 浩 (小児科学) 4. 1

♪ 竹中 洋 (耳鼻咽喉科学) ♪

平成11年度・平成12年度機器共同利用センター運営委員会委員

機器共同利用センター長 今井 雄介 (生理学Ⅰ) 4. 1

機器共同利用センター副センター長 竹中 洋 (耳鼻咽喉科学) ♪

助 教 西村保一郎 (数 学) ♪

教 授 佐野 浩一 (微生物学) ♪

助 教 吉田龍太郎 (生理学Ⅱ) ♪

♪ 岡田 仁克 (病理学Ⅱ) ♪

診療助教授 坪倉 省吾 (産婦人科学) ♪

講 師 時松 敬明 (物 理) ♪

♪ 渡辺 房男 (化 学) ♪

♪ 伊藤 裕子 (解剖学Ⅰ) ♪

♪ 矢野 貴人 (医化学) ♪

♪ 高井 真司 (薬理学) ♪

♪ 土手友太郎 (産学・公衆衛生学) ♪

♪ 島本 史夫 (内科学Ⅱ) ♪

♪ 豊田 昌夫 (一般・消化器科学) ♪

♪ 伊藤 尚 (耳鼻咽喉科学) ♪

学内講師 岡崎 芳次 (生 物) ♪

♪ 梶本 宜永 (脳神経外科学) ♪

♪ 辰 吉光 (放射線医学) ♪

♪ 畑中 道代 (病態検査学) ♪

助 手 田村 明敬 (物 理) ♪

♪ 玉山 卓己 (解剖学Ⅱ) ♪

♪ 相馬 義郎 (生理学Ⅰ) ♪

♪ 竹下 篤 (病理学Ⅰ) ♪

♪ 古玉 大介 (内科学Ⅰ) ♪

♪ 浮村 聡 (内科学Ⅲ) ♪

♪ 堺 潤 (神経精神医学) ♪

♪ 芦田 明 (小児科学) ♪

♪ 森田 琢也 (胸部外科学) ♪

♪ 酒井 雅人 (麻酔科学) ♪

♪ 森川 潤一 (整形外科科学) ♪

♪ 前島 精治 (皮膚科学) ♪

♪ 東 治人 (泌尿器科学) ♪

♪ 杉山 哲也 (眼 科) ♪

♪ 仙田 順子 (口腔外科学) ♪

♪ 大宮 由香 (形成外科学) ♪

放射線安全委員会委員

機器共同利用 センター長 教授	今井 雄介 (生理学 I)	4. 1
機器共同利用 副センター長 教授	竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)	〃
助 教授	末吉 公三 (放射線医学)	4.21
診療助教授	陰山 克 (内科学 II)	〃
講 師	北岡 治子 (内科学 I)	4. 1

保健管理室運営委員会委員

講 師	北岡 治子 (内科学 I)	4. 1
-----	---------------	------

ハイテク・リサーチ・センター運営委員会委員

教 授	大槻 勝紀 (解剖学 I)	4. 1
〃	窪田 隆裕 (生理学 II)	〃
〃	鏡山 博行 (医化学)	〃
〃	宮崎 瑞夫 (薬理学)	〃
〃	佐野 浩一 (微生物学)	〃
〃	玉井 浩 (小児科学)	〃
〃	谷川 允彦 (一般・消化器外科学)	〃
〃	竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)	〃
助 教授	渡辺 正仁 (解剖学 II)	〃
〃	岡田 仁克 (病理学 II)	〃
〃	麻田 邦夫 (胸部外科学)	〃
〃	草壁 秀成 (皮膚科学)	〃
〃	末吉 公三 (放射線医学)	〃
〃	中川 俊正 (病態検査学)	〃
講 師	中張 隆司 (生理学 I)	〃
〃	土手友太郎 (衛生学・公衆衛生学)	〃
〃	松村 人志 (神経精神医学)	〃
〃	郷司 和男 (泌尿器科学)	〃
〃	植田 政嗣 (産婦人科学)	〃
学内講師	梶本 宜永 (脳神経外科学)	〃
〃	奥 英弘 (眼科学)	〃
〃	橋口 範弘 (口腔外科学)	〃
助 手	竹下 篤 (病理学 I)	〃
〃	西尾 元 (法医学)	〃
〃	古玉 大介 (内科学 I)	〃
〃	前村憲太郎 (内科学 II)	〃
〃	宗宮 浩一 (内科学 III)	〃
〃	南 敏明 (麻酔科学)	〃
〃	神原 清人 (整形外科学)	〃
〃	小宗 弘幸 (形成外科学)	〃

薬剤部問題検討委員会委員長

病院薬剤部長 教授	竹中 洋 (耳鼻咽喉科学)	4.20
--------------	---------------	------

薬剤部問題検討委員会委員

副 院長 教授	清水 章 (病態検査学)	4.20
教 授	谷川 允彦 (一般・消化器外科学)	〃
〃	米田 博 (神経精神医学)	〃
看護部長	勢川瑠美子 (病院看護部)	〃
病院事務部長	平野 勝 (病院事務部)	〃

薬剤師業務検討委員会委員

病院薬剤部長 薬剤部長代理兼 課 長	足立 憲彦 (病院薬剤部)	4.20
課 長	竹村喜一郎 (〃)	〃
病院薬剤部長 課長代理	中尾伊都子 (〃)	〃
〃	安藤 陽子 (〃)	〃
病院薬剤部長 課長補佐	西橋 正芳 (〃)	〃
〃	上田 倫子 (〃)	〃
〃	木山 治 (〃)	〃
〃	小林 豊英 (〃)	〃
病院薬剤部長 主任	北川 俊史 (〃)	〃
病院薬剤部長 技術員	中島美佐子 (〃)	〃

院外処方推進委員会委員

助 教授	田中 英高 (小児科学)	4.20
〃	山本 隆一 (病院医療情報部)	〃
講 師	北岡 治子 (内科学 I)	〃
〃	島本 史夫 (内科学 II)	〃
〃	石橋 孝嗣 (一般・消化器外科学)	〃
〃	長谷川滋人 (胸部外科学)	〃
学内講師	林 哲也 (内科学 III)	〃
病院薬剤部 薬剤課長	竹村喜一郎 (病院薬剤部)	〃
病院薬剤部長 課長代理	安藤 陽子 (〃)	〃
看護部長代理兼 看護副部長	神谷美佐子 (病院看護部)	〃
看護婦 (臨床指導者)	黒岩 真紀 (〃)	〃
課長代理	桐山 賢良 (病院事務部 医事第一課)	〃
事務員	藤岡 俊吾 (〃)	〃

(解 嘱)

主任健康管理医兼主任衛生管理者

診療助教授	石原 正 (内科学 I)	3.31
-------	--------------	------

健康管理医兼衛生管理者

講 師	北岡 治子 (内科学 I)	3.31
学内講師	関 庚輝 (〃)	〃

倫理委員会委員長

教 授 清金 公裕 (皮膚科学) 3.31

放射線安全委員会委員

教 授 清水 章 (病態検査学) 3.31

〃 大槻 勝紀 (解剖学Ⅰ) 〃

診療助教授 石原 正 (内科学Ⅰ) 〃

薬剤部問題検討委員会委員長

教 授 清水 章 (病態検査学) 4.19

薬剤部問題検討委員会委員

教 授 米田 博 (神経精神医学) 4.19

助 教 授 谷川 允彦 (一般・消化器外科) 〃

看護部長 勢川瑠美子 (病院看護部) 〃

病院事務部長 平野 勝 (病院事務部) 〃

課 長 竹村喜一郎 (病院薬剤部) 〃

〔海外渡航〕

木下 光雄 (整形外科学助教授)
アメリカ (ロサンゼルス) 2. 5 ~ 2. 9

米田 博 (神経精神医学教授)
アメリカ (フェニックス) 2. 8 ~ 2.13

片山 博視 (小児科学学内講師)
アメリカ (ハワイ) 2.11 ~ 2.14

瀬川 直樹 (泌尿器科学助手)
韓国 (ソウル) 2.11 ~ 2.14

村田 卓士 (小児科学助手)
アメリカ (ハワイ) 2.11 ~ 2.17

相馬 義郎 (生理学Ⅰ助手)
アメリカ (ボルチモア) 2.12 ~ 2.21

竹中 洋 (耳鼻咽喉科学教授)
韓国 (ソウル) 2.20 ~ 2.23

米田 博 (神経精神医学教授)
横田 伸吾 (〃 助手)

台湾 (台北) 3. 5 ~ 3. 9

金 明博 (整形外科学学内講師)
メキシコ (カンクン) 3.10 ~ 3.16

島原 政司 (口腔外科学教授)
スイス (ベルン) 3.11 ~ 3.19

相馬 義郎 (生理学Ⅰ助手)
イギリス (ニューカッスル) 3.22 ~ 4. 3

奥田 準二 (一般・消化器外科学助手)
アメリカ (テキサス) 3.26 ~ 4. 1

山本 隆一 (医療情報部助教授)
ドイツ (ベルリン) 4. 9 ~ 4.16

森本 大成 (胸部外科学助手)
アメリカ (ミネアポリス他) 4.10 ~ 4.18

阿部 宗昭 (整形外科学教授)
オーストラリア (シドニー) 4.14 ~ 4.24

森川 潤一 (整形外科学助手)
加藤 洋 (リハビリテーション科助手)

オーストラリア (シドニー) 4.15 ~ 4.21

齊藤 治 (内科学Ⅱ講師)
アメリカ (オーランド) 4.15 ~ 4.22

神原 清人 (整形外科学助手)
オーストラリア (シドニー) 4.15 ~ 4.22

木下 光雄 (整形外科学助教授)
中島 幹雄 (〃 講師)

奥田 龍三 (〃 学内講師)
金 明博 (〃)

小坂 理也 (〃 助手)
オーストラリア (シドニー) 4.18 ~ 4.24

古玉 大介 (内科学Ⅰ助手)
アメリカ (ノースカロライナ) 4.20 ~ 4.26

陰山 克 (内科学Ⅱ診療教授)
チェコ (プラハ) 4.20 ~ 4.26

福田 市藏 (内科学Ⅰ診療教授)
アメリカ (ニューオリンズ) 4.21 ~ 5. 2

太田 富雄 (脳神経外科学教授)
アメリカ (ニューオリンズ) 4.23 ~ 4.28

谷川 允彦 (一般・消化器外科学教授)
韓国 (ソウル) 4.27 ~ 4.29

原 均 (一般・消化器外科学学内講師)
仁木 正己 (〃)

野村 栄治 (〃 助手)
大谷 昌裕 (附属病院 〃)

韓国 (ソウル) 4.27 ~ 4.29

黒岩 敏彦 (脳神経外科学講師)
アメリカ (ラスベガス) 4.28 ~ 5. 3

島原 政司 (口腔外科学教授)
紺田 敏之 (〃 助手)

タイ (コンケン市) 4.29 ~ 5. 5

勝岡 洋治 (泌尿器科学教授)
アメリカ (ダラス) 4.29 ~ 5. 7

(留 学)

宮崎 彩子 (病態検査学助手)
フランス (クレティユ) 3.17 ~ 9.13

上田 晃一 (形成外科学講師)
イギリス (オックスフォード大学) 11. 4.11 ~ 12. 3.31

白田 寛 (衛生学・公衆衛生学助手)
スイス (ジュネーブ) 11. 5. 1 ~ 12. 4.30

「第4回盛記念学術賞」受賞者決定

平成10年10月7日付で公示のあった、第4回盛記念学術賞には10名の応募がありました。

盛学術振興基金審査委員会での厳正な審査の結果、次の4名に対し、「第4回盛記念学術賞」を授与することが決定し、4月28日（水）午後3時から第2会議室において、学長をはじめ同運営委員他関係者出席のもとに受賞式が行われました。

1. 助教授以下の教職員（賞金額：100万円）

- ・ 講師（産婦人科学）植田政嗣

申請課題「子宮頸癌の浸潤・転移とその抑制に関する研究」



植田講師
(海外留学中)

2. 助教授以下の教職員（賞金額：50万円） *申請順

- ・ 講師（第1生理学）中張隆司

申請課題「細胞形態の変化による組織、細胞機能の修飾に関する研究」

- ・ 助教授（脳神経外科学）長澤史朗

申請課題「出血性脳血管障害の外科治療 — 神経放射線画像を利用した治療戦術の工夫と、模擬手術を応用した治療戦略の展望 — 」

- ・ 講師（耳鼻咽喉科学）山本祐三

申請課題「唾液腺腫瘍の遺伝子異常に関する分子生物学的検討とその臨床的意義」



前列左から中張講師、藤本学長、長澤助教授、山本講師
後列左から東理事、植木教授、今井教授、佐々木教授

平成11年度 主なる事業計画

平成11年度の主なる事業計画は次のとおりです。
(事業内容)

- A) 病院非常放送及び自動火災報知設備整備工事
- B) 研究診療設備拡充計画
 - 1. シラバス作成評価システム 1式
 - 2. 遺伝子・蛋白・組織(プロテオーム)の構造と機能解析システム 1式
 - 3. 電子スピン共鳴装置システム 1式
 - 4. ポリグラフシステム 1式
 - 5. 総合血液学検査装置
 - 6. 腹部血管連続撮影システム(シングルプレーン)
- C) 施設改修整備計画
 - 1. 病院2号館市水高架水槽取替工事
 - 2. 病院2号館1階便所改造工事

平成11年度予算について

本法人の平成11年度予算は評議員会の審議を経て、理事会で承認決定されました。

平成8年度決算では教育研究経費・管理経費の増加率が医療収入の増加率を上回り、平成9年度決算で改善されはしましたが、なお帰属収入で人件費や諸経費等の消費支出を賄うことが出来ない極めて厳しい状況にあります。平成11年度予算はそのような状況の下において帰属収支差額(帰属収入-消費支出)でマイナスすなわち赤字を出さないという基本方針の下に編成された予算であります。

国及び地方公共団体から経常費の補助を受ける学校法人の会計処理は、文部省令で定める「学校法人会計基準」により行うこととなっています。この「基準」では、学校法人の財政状況をみるには学校法人の負債とならない収入(帰属収入)と支出(消費支出)の均衡状態を明らかにする「消費収支」と、学校法人の教育研究等諸活動に係る全ての収入と支出の内容を明らかにする「資金収支」とでみるようになっていきます。

以下平成11年度予算の概略について消費収支

を中心に説明いたします。

1. 消費収支予算について

(1) 主な収入の状況

①「学生生徒等納付金収入」

27億1,000万円。帰属収入に対する比率は9.6%となり、前年度予算と比較しますと1%の増加となります。10年度から大学院・看護専門学校が学納金が改定されたこと及び教育充実費の分納分9,000万円が増加することによります。

②「寄付金収入」

5億4,000万円。前年度予算と比較して8,000万円の増加となっています。

これは新総合診療棟建設のための寄付金を学内外に広く募集する予定であり、その11年度分として1億円見込んでいます。

③「補助金収入」

24億1,000万円。帰属収入に対する比率は8.6%となり、前年度予算と比較しますと0.4%増加します。10年度は研究装置の申請がありませんでしたが、11年度はプロテオーム解析システムで4,000万円の申請があること、経常費補助金で微増となることによります。

④「資産運用収入」

2億9,000万円。低金利時代を反映して、受取利息・配当金が減少します。施設設備利用料では若干の増収を見込んでおります。

⑤「医療収入」

213億3,000万円。帰属収入に対する比率は75.7%となり帰属収入中最も大きな収入となっています。11年度予算では10年度と同様に病床稼働率を94.5%に目標設定し、外来患者数は過去3ヶ年の動態を考慮しています。単価については、昨年診療報酬の改正等により外来での単価が下がったことから、前年度比較で入院収入が+1億6,000万円、外来収入が△10億3,000万円になり、初めて前年度を下回る予算額となっております。

医療を取り巻く環境は、年毎に厳しくなってきました。殊に厚生省の病診連携・医薬分業の指導強化の観点から診療報酬の改正も入院に厚く外来に薄い改正内容となっております。しかももろにそれを受けた結果となっております。しかしながら本学の置かれている地理的条件・患

者動態・診療報酬内容の分析等々全学的な取り組みを強化することでまだまだ多分に改善できる要素はあると考えます。

(2) 主な支出の状況

①「人件費」

127億6,700万円。対前年度予算比較では0.7%の減少ですが、帰属収入に占める比率は45.3%で、前年度が44.9%であったことからすると0.4%増大しています。

②「教育研究経費」

136億5,600万円。医学部・大学院・看護専門学校での教育研究活動の全般に亘る必要経費ですが、本学の現在の財政状況から前年度比較で3億円減となっております。消耗品費及び医療材料費が減少の反面、委託費・賃借費で増加しています。帰属収入に占める比率は48.6%です。

③「管理経費」

13億2,700万円。前年度予算比較で1億円増加していますが、委託費の増加によるものです。帰属収入に占める比率は4.7%となっています。

④「予備費」

前年度予算と同額で、2億円を計上しております。

2. 資金収支予算について

①「資産売却収入」

前年度末に購入した信託受益権の売却で10億円を計上しています。

②「借入金収入」

第2次学債募集による借入を10億円、年末賞与のための短期借入金を5億円計上しています。

③「施設関係支出」

1億1,500万円。附属病院の整形外科外来改装、感染性患者用病室設置、非常放送用自動火災報知器改修。看護専門学校の空調設備設置等が主なもので前年度予算に対して5,300万円増加しています。

④「設備関係支出」

8億5,400万円。主なものとしてプロテオーム解析システム、シラバス作成評価システム、ハイテクリサーチセンター用研究設備、附属病院のオーダー系システムの整備、総合血液学検査装置があります。前年度予算と比較しますと9,400万円の増加となっております。

3. 消費収支予算の均衡状態

平成11年度予算では帰属収入が281億8,500万円（前年度予算比△1.5%）で、消費支出は280億9,600万円（前年度予算比△1.1%）となり、帰属収支差額は8,800万円となります。また予備費2億円を消費支出から差引きますと2億8,800万円の帰属収支差額となる黒字予算となっております。

但し、基本金繰入後の当年度消費支出超過額は7億1,000万円で、前年度までの消費支出超過額153億2,000万円を合わせますと翌年度繰越消費支出超過額は160億3,000万円になり、消費収支差額については依然として赤字の累積が増大しております。

今後、教育・研究の環境整備の為の資金需要はより増大していくものと思われます。収支の均衡を図り、財政基盤の安定を盤石なものとするには、より効率的な予算管理をするのほもとより全教職員が大学経営に対する意識改革を積極的に進めていくことが必要であると考えます。

(財務部)



平成11年度・収支予算

消費収支予算

(単位：千円)

消費収入の部				消費支出の部			
科 目	平成11年度 予算額	平成10年度 予算額	増・減(△)	科 目	平成11年度 予算額	平成10年度 予算額	増・減(△)
学生生徒等納付金収入	2,710,568	2,455,606	254,962	人 件 費	12,767,332	12,860,999	△93,667
手数料収入	80,689	91,887	△11,198	教育研究経費	13,656,120	13,968,109	△311,989
医療収入	21,333,456	22,212,827	△879,371	管理経費	1,327,752	1,226,760	100,992
寄付金収入	542,600	460,600	82,000	借入金等利息	108,443	119,105	△10,662
補助金収入	2,413,921	2,343,027	70,894	資産処分差額	24,913	27,749	△2,836
資産運用収入	290,974	300,439	△9,465	徴収不能額	11,764	5,739	6,025
事業収入	386,246	410,610	△24,364	予 備 費	200,000	200,000	0
雑 収 入	426,691	339,431	87,260				
帰属収入合計	28,185,145	28,614,427	△429,282	消費支出の部合計	28,096,324	28,408,461	△312,137
基本金組入額合計	△800,202	△719,543	△80,659				
消費収入の部合計	27,384,943	27,894,884	△509,941	当年度消費支出超過額	△711,381	△513,577	△197,804

資金収支予算

(単位：千円)

収入の部				支出の部			
科 目	平成11年度 予算額	平成10年度 予算額	増・減(△)	科 目	平成11年度 予算額	平成10年度 予算額	増・減(△)
学生生徒等納付金収入	2,710,568	2,455,606	254,962	人 件 費	12,325,600	12,546,808	△221,208
手数料収入	80,689	91,887	△11,198	教育研究経費	12,353,611	12,605,447	△251,836
医療収入	21,333,456	22,212,827	△879,371	管理経費	1,225,783	1,125,603	100,180
寄付金収入	520,000	430,000	90,000	借入金等利息支出	108,443	119,105	△10,662
補助金収入	2,413,921	2,343,027	70,894	借入金等返済支出	725,411	726,850	△1,439
資産運用収入	290,974	300,439	△9,465	施設関係支出	115,107	62,046	53,061
資産売却収入	1,000,000	1,000,484	△484	設備関係支出	854,770	760,256	94,514
事業収入	386,246	410,610	△24,364	資産運用支出	1,103,837	1,122,900	△19,063
雑 収 入	426,691	339,431	87,260	その他の支出	2,942,125	2,939,125	3,000
借入金等収入	1,500,000	500,000	1,000,000	予 備 費	200,000	200,000	0
前受金収入	1,034,812	899,740	135,072				
その他収入	4,168,933	4,427,230	△258,297				
資金収入調整勘定	△4,762,857	△4,700,022	△62,835	資金支出調整勘定	△2,776,975	△2,847,818	70,843
前年度繰越支払資金	4,086,204	3,080,062	1,006,142	次年度繰越支払資金	6,011,925	4,430,999	1,580,926
収入の部合計	35,189,637	33,791,321	1,398,316	支出の部合計	35,189,637	33,791,321	1,398,316

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

1. 「寄付金」には、資金収支上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。
2. 「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支予算では退職金支出額が計上されているのに対し、消費収支予算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
3. 「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支予算上の支払経費のほかに、消費収支予算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

平成10年度 学位記授与

〔大学院医学研究科課程修了者〕

大学院医学研究科課程修了による学位論文申請者に対する審査の結果、平成11年3月24日をもって17名が合格し、3月25日（木）の学部卒業式と合同で学位記授与式が行われました。

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第566号	井 口 幸 三	Urinary Lithium: Distribution Shape, Reference Values and Evaluation of Exposure by Inductively Coupled Plasma Argon-Emission Spectrometry (ICP 発光分析法によるヒト尿中リチウム濃度の測定：分布様式、参考値、暴露指標について)
甲第567号	池 田 宗一郎	Pulmonary microvascular responses to inhaled prostacyclin, nitric oxide and their combination in anesthetized cats (麻酔下ネコでの吸入プロスタサイクリンと一酸化窒素及び両者の併用に対する肺小血管の拡張応答)
甲第568号	大 植 慎 也	Redesigning the Substrate Specificity of an Enzyme by Cumulative Effects of the Mutations of Non-active Site Residues (酵素の基質特異性の変換 －人工的定向進化による新しいタンパク質の作製－)
甲第569号	岡 空 圭 輔	Comparison of bioelectrical impedance analysis and dual energy X-ray absorptiometry for assessment of body composition in children (小児の身体組成評価における生体インピーダンス法と DXA 法の比較)
甲第570号	岡 本 文 雄	CD36 abnormality and impaired myocardial long-chain fattyacid uptake in patients with hypertrophic cardiomyopathy (肥大型心筋症における CD36 異常と心筋長鎖脂肪酸代謝異常)
甲第571号	金 徳 男	Roles of vascular angiotensin converting enzyme and chymase in two-kidney, one clip hypertensive hamsters (ハムスターの2腎性1クリップ型高血圧モデルにおける血管アンジオテンシン変換酵素とキマーゼの役割)
甲第572号	日 下 守	Exploitation of the continuum between early ischemia/reperfusion injury and host allo-responsiveness: indefinite kidney allograft survival by treatment with a soluble P-selectin ligand and low dose cyclosporine in combination (臓器移植における虚血再灌流障害と抗原特異的反応の関連性：ラット腎急性拒絶反応モデルに対するセレクチンリガンドの効果と低濃度シクロスポリン併用療法の有用性)
甲第573号	河 野 武 弘	Morphological identification of Borna disease virus (1) Contrast-enhancement for the image of human immunodeficiency virus from ultrathin section by immuno-electron microscopy (2) Fine structures and morphogenesis of Borna disease virus (BDV) (ボルナ病ウイルスの形態学的同定 1) 免疫電子顕微鏡法によるヒト免疫不全ウイルスの画像コントラストの改善 2) ボルナ病ウイルス (BDV) の超微細構造と粒子形成過程)
甲第574号	辻 厚 子	エンドトキシン傷害の臓器特異性に関する研究 －毛細血管内皮細胞の関与について－

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第575号	辻 久仁子	Specific binding and effects of dehydroepiandrosterone sulfate (DHEA-S) on skeletal muscle cells : possible implication for DHEA-S replacement therapy in patients with myotonic dystrophy (Dehydroepiandrosterone sulfate (DHEA-S) の骨格筋細胞における特異的結合及び作用：筋緊張性ジストロフィー患者に対する DHEA-S 補充療法の可能性)
甲第576号	土 肥 美和子	1回曝射エネルギーサブトラクション Computed Radiography による肺野結節影描出能の検討
甲第577号	戸 田 恵 美	Modulation by Neurogenic Acetylcholine of Nitroxidergic Nerve Function in Porcine Ciliary Arteries (神経性アセチルコリンによるブタ毛様動脈支配 NO 作動性神経機能の修飾)
甲第578号	中小路 隆 裕	A novel coronary injury model in cholesterol-fed dogs (コレステロール負荷による新たなイヌ冠動脈傷害モデルの作成)
甲第579号	藤 本 勝 久	培養骨芽細胞に認められた内向き整流性カリウムチャネルの C キナーゼによる活性化
甲第580号	山 下 英 俊	Fas Ligand Expression in Human Endometrium during the Menstrual Cycle in Relation to Fas Antigen and Bcl-2 Expressions (月経周期における子宮内膜の Fas リガンドの発現について - Fas および Bcl-2 との関連において -)
甲第581号	山 田 真由美	ヒト慢性拒絶反応腎における肥満細胞キマーゼ及びアンジオテンシン II 変換酵素の発現 -慢性拒絶反応腎間質線維化とアンジオテンシン II との関連性-
甲第582号	吉 本 悟 峰	Serum Neopterin Assay to Interpret the Main Cause of Chronic Liver Damage Involved with Plural Etiological Factors (原因が混在する慢性肝障害の主因の解釈における血清ネオプテリンの測定意義)

〔論文提出による合格者〕

所定の審査が行われた結果、平成11年3月24日をもって24名が合格し、3月30日(火)午後2時から第2会議室において学長及び指導教授出席の下、授与式が行われました。

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第812号	渡 辺 寛	Estimation of age from the femur of Japanese cadavers (日本人遺体の大腿骨による年齢の推定)
乙第813号	小 橋 文 香	Solitary papillary muscle hypertrophy as a possible form of hypertrophic cardiomyopathy (肥大型心筋症の一病型としての孤立性乳頭筋肥大について)
乙第814号	武 内 徹	Increased Percentage of CD16 ⁻ , CD56 ⁺ Lymphocytes in Patients with Systemic Lupus Erythematosus -a Novel Marker for Disease Activity- (全身性エリテマトーデス患者における末梢血リンパ球サブセット解析 -新しい疾患活動性指標・CD16 ⁻ CD56 ⁺ リンパ球の増加-)
乙第815号	藤 原 祥 子	Isosmotic modulation of Ca ²⁺ -regulated exocytosis in antral mucus cells : role of cell volume (等張下における幽門腺粘液細胞の開口放出調節機構：細胞容積の役割)

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第816号	高 瀬 卓 志	Effect of Ebselen on Contractile Responses in Perfused Rabbit Basilar Artery (灌流システムを用いた家兔脳底動脈の血管収縮性に対する Ebselen 作用の検討)
乙第817号	植 木 麻 理	角膜厚の眼圧測定値に及ぼす影響の基礎的及び臨床的研究
乙第818号	酒 井 亮 一	プロスタグランジン関連点眼薬 (イソプロピルウノプロストン) の視神経乳頭血流増加作用に対する一酸化窒素の関与
乙第819号	福 田 泰 樹	高槻市・島本町における肺癌患者の予後の改善 -医療機関個別方式による肺がん検診の副次的効果の可能性-
乙第820号	高 須 太 三 郎	Apoptosis and Perturbation of Cell Cycle Progression in an Acidic Environment after Hyperthermia (酸性細胞外環境下における温熱誘導性アポトーシスと細胞周期変化)
乙第821号	日 下 泰 子	Effect of sulfo-N-succinimidyl palmitate on the rat heart: myocardial long-chain fatty acid uptake and cardiac hypertrophy (心筋細胞長鎖脂肪酸取り込み異常と心肥大)
乙第822号	谷 村 光 啓	Effects of AT ₁ -Receptor Blockade on Progression of Left Ventricular Dysfunction in Dogs with Heart Failure (イヌ心不全モデルにおける左室機能不全の進行に対する AT ₁ レセプター拮抗薬の効果)
乙第823号	左近上 博 司	カニクイザルの高コレステロール負荷動脈硬化モデルにおけるアンジオテンシン変換酵素阻害薬及びアンジオテンシン II 受容体拮抗薬の抗動脈硬化作用
乙第824号	住 岡 真 也	培養脳腫瘍細胞由来血管内皮細胞増殖因子に及ぼす gluco-corticoid の影響について
乙第825号	岡 部 真	Remodeling of cardiomyocytes and their branches in juvenile, adult and senescent spontaneously hypertensive rats and Wistar Kyoto rats: comparative morphometric analyses by scanning electron microscopy (若齢、成熟並びに老齢高血圧自然発症ラットとウイスターキョウトラットにおける心筋細胞とその分枝のリモデリング: 走査型電子顕微鏡による定量的比較解析)
乙第826号	原 田 雅 之	Serum Lipid Levels in Patients with Chronic Cerebrovascular Disease: Comparison of serum Lp (a) levels with brain CT findings (脳血管障害慢性期における血清脂質について -血清 Lp (a) と頭部 CT の対比-)
乙第827号	神 戸 尚 史	Acute and Early Effects of Triiodothyronine Administration on Serum Markers of Bone and Mineral Metabolism (骨代謝に対するトリヨードサイロニン投与の急性効果の検討)
乙第828号	小 島 敬 史	炎症性腸疾患における糞便中 α_1 -antitrypsin の分析: α_1 -acidglycoprotein との比較を含めて
乙第829号	橋 本 重 樹	A novel lipoprotein lipase activator, NO-1886, fails to improve cachexia in nude rats bearing human interleukin-6 producing tumor (OF24-A) (新しいリポ蛋白質リパーゼ活性化剤である NO-1886 は、ヒト IL-6 産生腫瘍 OF24-A 移植ヌードラットにおける悪液質を改善しない)
乙第830号	藤 田 淳	Differential regulation of ligand-dependent and ligand-independent functions of the mouse retinoid X receptor β by alternative splicing (マウス β レチノイド X 受容体は選択的スプライシングによってリガンド依存的・非依存的機能に対して異なった調節をする)

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第831号	野 井 理	Comparative effects of glycerol and Urografin on cochlear blood flow and serum osmolarity (Glycerol と Urografin [®] の内耳血流及び血清浸透圧に対する効果)
乙第832号	石 田 高 明	ヒト回虫抗原とヒト大腸粘膜との共通抗原性の検討
乙第833号	西 村 馨	<i>Helicobacter pylori</i> 感染と胃粘膜アンモニア濃度に関する研究 - アンモニアセンサーを用いた <i>Helicobacter pylori</i> 感染診断法の確立 -
乙第834号	熊 野 宏 二	ヒト大腸癌細胞株 (Caco-2) における $\beta 1$, 6N-アセチルグルコサミン転移酵素に対する TGF- $\beta 1$ の影響
乙第835号	金 原 裕 則	Involvement of angiotensin II receptor subtypes during testicular development in rats (ラット精巣の発育にともなう Ang II 受容体とそのサブタイプの変化について)

助成金の決定について

平成10年度研究・調査助成金 [(財)大阪ガスグループ福祉財団]

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名	助 成 金 額
地域に在住する高齢者における抑うつ症状と受療状況、医療費との関連	衛生学・公衆衛生学 助教授・渡辺 丈真	35万円

平成11年度 国際研究集会派遣研究員 (第I期) の決定について

(文 部 省)

研 究 集 会 名	所 属 ・ 職 ・ 氏 名	開 催 期 間 ・ 場 所
17th International and 13th Congress of Clinical Chemistry and laboratory Medicine, Satellite Meeting No.12, "From Laboratory Medicine to Molecular Medicine"	病 態 検 査 学 教 授 ・ 清 水 章	1999年6月6日 ～6月13日 イタリア フローレンス・ナポリ

日本植物生理学会論文賞の受賞について

(日本植物生理学会)

論 文 名	所 属 ・ 職 ・ 氏 名
Disruption Analysis of the Gene for a Cold-Regulated RNA-Binding Protein <i>rbpA1</i> , in <i>Anabaena</i> : Cold-Induced Initiation of the Heterocyst Differentiation Pathway <i>Plant and Cell Physiology</i> 37 (8) : 1150-60 (1996)	物 理 学 助 教 授 ・ 和 田 明

平成11年度 科学研究費補助金内定について

平成10年12月に文部省へ応募した144件の研究計画に対し、本年度は54件、総額8,960万円の内定がありました。

[研究課題番号順]

(単位：千円)

研究種目	研究課題	所属・職名	氏名	交付内定額
基盤 (B)	精神分裂病の同胞対照法によるマイクロサテライトマーカーを用いた分子遺伝学的研究	神経精神医学教授	米田 博	* 1,900
〃	急性前骨髄性白血病治療におけるレチノイン酸薬物動態および耐性機構の研究	小児科 学 教授	玉井 浩	* 1,300
〃	抗癌剤感受性増強と治療係数の上昇へ向けた遺伝子治療研究	一般・消化器外科学教授	谷川 允彦	* 1,400
〃	水頭症治療における最適なシャントシステム特性の解明	脳神経外科学 学 内 講 師	梶本 宜永	* 500
〃	心血管組織におけるキマーゼ由来の Ang II の病態生理学的役割およびその阻害薬	薬 理 学 教授	宮崎 瑞夫	9,900
〃	原因不明の突然死におけるイオンチャンネル遺伝子変異に関する研究	法 医 学 教授	鈴木 廣一	10,000
〃	難治性疼痛の発症機構の解明	麻 酔 科 学 手 助	南 敏明	8,600
〃 (展開)	質量分析によるグリコヘモグロビンの標準定量法の確立と実用化	病 態 検 査 学 教授	清水 章	* 1,800
〃	プロテオームの新しい解析手段としての RFHR 二次元電気泳動法の実用化	物 理 学 教授 助 教	和田 明	9,800
基盤 (C)	低濃度フッ化物の腎機能への影響に関する研究 (加齢に伴う腎機能低下との相互影響)	衛生学・公衆衛生学教授	河野 公一	* 500
〃	肺がん個別検診が対象地域の肺がん患者の予後に与える効果に関する検討	第 1 内 科 学 手 助	福田 泰樹	* 300
〃	心筋炎の心筋細胞内ウイルス核酸の発現とアポトーシスに関する分子病理学的研究	第 3 内 科 学 手 助	浮村 聡	* 100
〃	小児中枢神経感染症の臨床・免疫学的研究・神経学的後遺症発症機序の解明へ向けて	小 児 科 学 師 小 講	鈴木 周平	* 500
〃	神経芽腫における ATRA による trkA 遺伝子転写産物の発現と分化誘導に関する研究	小 児 科 学 師 小 学 内 講	三宅 宗典	* 500
〃	唾液腺腫瘍における遺伝子異常と Telomerase 活性の解析	耳 鼻 咽 喉 科 学 師 講	山本 雄三	* 500
〃	インゲンマメ葉枕細胞の青色光誘導脱分極機構のパッチクランプ法による解析	生 物 学 師 学 内 講	岡崎 芳次	* 500
〃	STR 多型マーカーに見られた de novo 変異の塩基配列解析	法 医 学 手 助	田村 明敬	* 500
〃	食事成分由来の腸管内物質、特に脂肪酸の腸粘膜バリアー機構におよぼす影響	第 2 内 科 学 師 講	斉藤 治	* 500
〃	心筋症・心筋炎患者およびトランスジェニックマウス心筋炎の心筋内ウイルス核酸発現機構	第 3 内 科 学 師 講	出口 寛文	* 200
〃	拡張型心筋症における慢性心筋炎の成因論的意義に関する研究：左室縮小形成術時切除心筋における炎症性細胞浸潤、ウイルスゲノム、アポトーシスの解析	第 3 内 科 学 手 助	寺崎 文生	* 800

研究種目	研究課題	所属・職名	氏名	交付内定額
基盤 (C)	皮膚間葉系悪性腫瘍における抗癌剤耐性機序の解析とその克服の検討	皮膚科 学助 教授	草壁 秀成	* 1,000
〃	膵癌、肝癌のアポトーシスと血管新生の増殖・転移、及び予後への関与の解明	一般・消化器外科学 講	森田 眞照	* 500
〃	凍結保存血管の viability の評価と移植後免疫反応	胸部外科学 教授	佐々木進次郎	* 1,200
〃	脳動脈瘤の治療に関する血行力学的検討 － 流体モデルによる模擬実験 －	脳神経外科学 教授	長澤 史朗	* 600
〃	in situ hybridization 法を用いた遺伝的脊柱変形ウサギの検討	整形外科学 学内 講師	金 明博	* 900
〃	腹膜原発漿液性腺癌および卵巣癌の発育進展におけるアポトーシスと腫瘍内血管新生	産婦人科 学教授	植木 實	* 1,100
〃	ヒト卵膜におけるアポトーシス	第 1 解剖 学教授	大槻 勝紀	* 800
〃	皮弁移植におけるスルファチドの効果と作用機序に関する実験的研究	形成外科学 教授	田嶋 定夫	* 600
〃	GPI-アンカー型補体制御因子 (CD59) のシグナル伝達機構：二量体形成の意義	病態検査学 学内 講師	畑中 道代	* 600
〃	胃粘液開口放出の細胞内 C1- 及び G 蛋白による調節機構の研究	第 1 生理 学講師	中張 隆司	2,300
〃	地域に在住する独り暮らし老人の抑うつ症状・睡眠障害と日常生活時血圧変動との関連	衛生学・公衆衛生学 助 教授	渡邊 丈眞	2,900
〃	侵襲下におけるリンパ級 Apoptosis 誘導の機序とその制御	一般・消化器外科学 助	平松 昌子	1,800
〃	骨格筋の筋萎縮の発生メカニズムに関する研究	整形外科学 教授	阿部 宗昭	700
〃	A-Vshunt loop の血管新生と再生工学に関する実験的研究	形成外科学 教授	田中 嘉雄	2,000
〃	HCV 感染に伴い増加する B 細胞クローンと補体寒冷活性化を起こす RF の V 領域の構造	病態検査学 教授	清水 章	2,500
〃	銅結合金属蛋白質のアポ/ホロ比の定量：新しい細胞内酸化的傷害の指標	病態検査学 講師	中西 豊文	2,000
〃	ピリドキサル酵素のプロトン移動機構の基礎的研究	医 化 学助 教授	林 秀行	2,300
萌芽	内分泌細胞の機能亢進と腫瘍化における caveolin の役割	第 2 病理 学講師	前田 環	* 800
〃	神経疾患の原因となる変異蛋白質の質量分析による検出と構造決定および新診断法の確立	病態検査学 学内 講師	岸川 匡彦	* 500
〃	腫瘍血管新生における Angiopoietin-1、2 の生物学的特性について	泌尿器科 学助手	和辻 利和	1,500
〃	リンパ球表面抗原の分子構造変化解析法の確立	病態検査学 教授	中川 俊正	1,000
〃	網膜グリア細胞における血管新生作用	眼 科 学教授	池田 恒彦	* 500
奨励 (A)	12-リポキシゲナーゼの血圧に対する病態生理学的役割の解明	薬 理 学講師	高井 真司	* 500

研究種目	研 究 課 題	所 属 ・ 職 名	氏 名	交 付 内 定 額
奨励 (A)	熱ショック蛋白と心臓性突然死：死因としてのストレス応答異常機構の解析	法 医 学 助 手	西 尾 元	* 500
♪	分子遺伝学的手法を用いたパニックディスオーダーの成因解明	神 経 精 神 医 学 助 手	稲 田 泰 之	* 800
♪	ノシセプチンによるアロディニアの発現機構の解明	麻 酔 科 学 助 手	原 直 樹	* 800
♪	Yeast Functional assay による膀胱癌における p53 変異の検討	泌 尿 器 科 学 助 手	山 本 員 久	* 900
♪	異常ヘモグロビン症診断のルーチン化のための新技術の開発	病 態 検 査 学 助 手	宮 崎 彩 子	* 700
♪	定向性進化の原理を利用したアミノ基転移酵素の基質特異性の変換	医 講 化 学 師	矢 野 貴 人	* 1,100
♪	抗精神病薬投与によるラット脳内 NMDA 型受容体サブユニットの変化について	中 央 検 査 部 中 助	豊 田 裕 敬	1,100
♪	未熟児、新生児疾患における酸化的 DNA 損傷	小 児 科 学 助 手	森 信 孝 雄	1,400
♪	遺伝子導入 (HGF, 変異 TGF- β レセプター) による腎移植慢性拒絶反応の治療の試み	泌 尿 器 科 学 助 手	東 治 人	1,100
♪	脳死状態が移植臓器に与える影響について －脳死ラットを用いた移植腎に関する研究－	泌 尿 器 科 学 助 手	日 下 守	1,100
♪	前立腺癌におけるカルシトニンレセプターの役割の解析	泌 尿 器 科 学 助 手	瀬 川 直 樹	1,400
合 計	54件			89,600

*印は前年度以前からの継続分

平成11年度入学試験及び国家試験状況

平成11年度入学試験状況

	志願者数	受験者数	入学者数
医学部 医学科	人 996	人 889	人 100
大学院医学研究科	45	45	43

医師国家試験状況

		新卒	既卒
受験者数	人 101	人 95	人 6
合格者数	88	85	3
合格率	87.1	89.5	50.0

(全国平均 84.1%、私大平均 79.2%)

		志願者数	受験者数	入学者数	
看護専門学校	第一看護学科	一般	人 235	人 193	
		推薦	13	13	
	第二看護学科	一般	122	104	
		推薦	12	12	
	計		382	322	85

看護婦国家試験状況

	受験者数	合格者数	合格率
第一看護学科	人 44	人 44	% 100
第二看護学科	46	45	97.8
計	90	89	98.9

(全国平均 97.1%、近畿平均 97.1%)

主な行事日程表

5月1日から7月31日までの学内における主要な行事予定は次のとおりです。

- 5月11日(火) 理事会
- 12日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
ナイチンゲール生誕祭
- 14日(金) 学位論文受付締切
- 26日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 29日(土) 理事会・評議員会
さつき会
- 6月2日(水) 医学会春期講習会
- 5日(土) 新入生歓迎会
- 9日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 14日(月) 学位論文提出のための語学試験
- 15日(火) 理事会
- 23日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 29日(火) 理事研究会
- 7月3日(土) 夏期休業(第4・5学年)
- 7日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 10日(土) 夏期休業(第1・2・6学年)

- 13日(火) 理事会
- 17日(土) 夏期休業(第3学年)
- 19日(月) 夏期休業(看護専門学校)
- 21日(水) 教授会・大学院医学研究科委員会
- 27日(火) 理事研究会

伝染病棟無償譲渡について

本学の敷地内にあった伝染病棟(組合立伝染病隔離病舎)が、3月31日付で伝染病予防法が廃止されたことに伴い、高槻市、摂津市及び島本町の二市一町から本法人に4月1日付で無償譲渡されました。

今後の利用については、法人で検討を行っています。

建物の概要

鉄筋コンクリート造 2階塔屋付
延床面積：1,039.5㎡

教室紹介

脳神経外科学教室

— 21世紀の脳科学を視野に入れ
identity と humanity のある
医学教育および医療をめざす —

本教室は、現太田富雄が京都大学より昭和50年、盛彌壽男前教授の後、外科学第一講座教授として赴任し、同年4月の外科学教室の再編成に伴い脳神経外科として従来の外科より独立したものである。創設当初より、本学における脳神経外科という未知なる専門科の立ち上げと、21世紀を担う若手脳神経外科専門医の育成に尽力するとともに、研究面でも多くの独創的な研究発表を行い、在四半世紀中に、本邦における大学中、有数の脳神経外科の地位を築き上げるに至っている。

現在、教室は教授以下、長澤史朗助教授、黒岩敏彦（外科医長）、三宅裕治、竹内栄一（病棟医長）の各講師、梶本宜永学内講師と助手4

名というスタッフ陣で、専攻医3名、大学院生9名、研修医4名、中国よりの留学生1名を加えた計27名の陣容である。教室のモットーは、identity の尊重と humanity のある医療であるが、教室員は多忙な中にも、humor の精神を失うことなく日常生活を enjoy している。

昨年度（1998. 1. 1～12.31）の診療実績は、総手術症例174例（脳腫瘍50、脳血管障害40、水頭症・奇形28、慢性硬膜下血腫16、機能脳神経外科8、脊髄・脊椎疾患7、脳膿瘍など感染性疾患5、外傷2、その他18）で、最近の新技术導入の流れとして、神経内視鏡手術やニューロナビゲーションシステムを用いての画像誘導脳定位手術などを積極的に行っている。また、破裂脳動脈瘤や閉塞性脳血管障害に対する血管内手術、脳腫瘍・AVM に対するガンマナイフ・エクソナイフによる神経放射線学的外科治療の実施など、近畿圏における中核の高度脳神経外科施設としての役割を十分果たしている。

一方、研究関連では、脳血管攣縮発生のメカ

第15回大阪医科大学脳神経外科学教室同門会



一同



ニズムに関する研究、無血手術を可能にする脳選択的灌流システムの開発、水の出るバイポラ（商品名：Twinty）や自在アームレスト付椅子（商品名：MKT-1）など各種手術器械・器具の開発、意識障害に関する研究を始めとして、脳循環動態、脳腫瘍、水頭症に関する研究が行われてきたが、いずれも臨床との関連を重視した独創的かつ先進的なものである。

学生に対する教育としては、比較的自由的な雰囲気の中で主として学生自身が興味を持ち積極的に修学できる内容にすべく努めているが、毎年多くの入局者に恵まれ、教授はいうに及ばずいずれのスタッフも元来、教え好きという性格にますます拍車がかかっている。

卒後教育に関しても、32関連病院への研修を始めとして、医療一般に関する実践力の早期獲得を実現するとともに、大学院進学も大いに奨励しており、大半の研修医が恵まれた環境のもとで希望に沿った各専門分野への研究参加を果たしている。

今後、脳神経外科としては、進行する老年（化）社会に向けてますます必要かつ重視されるであろう21世紀の医療像を的確に見つめ、さらなる発展のための努力を継続する所存である。

（文責：竹内）

海外出張記

神経精神医学教室 助手
横田 伸 吾

今回、私は3月6日から9日まで台北で開催された、第8回世界精神医学疫学学会に参加してきました。この学会は、通常の学会と多少おもむきを異にしており、単に学術的な発表のみを重視しているのではなく、疫学やそれに関連する領域の知識を深め、いかにそれを医療の現場に還元していくかということをテーマとしています。開催場所も、その国や地域が公衆衛生や疫学などの発展や研究に関心を示していることを優先事項とすることになっています。

今回は台湾の研究所（Academia Sinica）が主催で開催されましたが、6日に現地へ送迎バスで到着したとき、我々が抱えている研究所のイメージと若干異なり、驚きました。精神医学の研究所は当然有るのですが、同じ敷地内に、

天文学研究所、哲学研究所、植物学研究所、分子生物学研究所、人間科学研究所などと、領域の異なるさまざまな研究所が林立していたのです。ちょっとした研究所街といったところでしょうか。

学会の内容としては、ワークショップ、口頭発表、ポスター発表で、形式的には通常の学会と変わりはないのですが、内容的には、演者の



個人的な考えや今後の研究の進むべき方向を提言するなどのものがよくみられました。このことに対して、多少不思議な感覚を覚えていたのですが、掲示板に演題の変更が記されているのを見て、疑問は氷解しました。これらはレクチャーだったのです。つまり、参加者は自分たちの研究を発表するだけでなく、優れた研究者の現在の考え方に触れ、それを自分の現場に持って帰るということが重視されているのだということが分かりました。そしてこの時に、冒頭で私が記したこの学会の主旨を、私自身が理解したのでした。



今回の学会のテーマは、遺伝と環境だったのですが、精神疾患の発症にとって重要なのは、遺伝か環境かといった議論はすでに過去のものとなってきており、遺伝がいかに環境に影響し、

環境がいかに遺伝に影響するかを考えねばならないという内容の発表がいくつか見られ、遺伝と環境両者の関係の仕方をどのように考えるのかという、方法論の提案が行われておりました。学際的な学会であるために、分子遺伝学を駆使した研究もあれば、私が発表したような臨床遺伝学の研究、また、自身の行っている地域での公衆衛生活動の報告や、疫学的な調査というようにさまざまな分野や手法のものがありました。私自身は、遺伝の専門家ではありませんので、このようなレクチャーを聴く機会を得て勉強になりました。

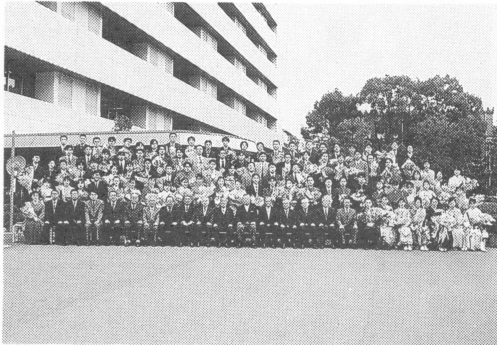
もちろん決して、学会会場にずっとへばりついていたわけではなく、発表の無い時間（おそらく観光のために用意されたのでは？）が半日ほどあり、その際には、ちょっとした観光客気分を味わいました。現地で知ったのですが、ちょうどこの頃はランタンフェスティバル（提灯祭りというところですか）が開催されており、夜の中正記念堂前のステージでの子供達による京劇を見ることもできました。反面、現在の台北での街の様子は、日本と比べて言葉のことを除けば、あまり違和感が無く、服装もだいたい同じ、店では日本のアイドル歌手の歌が流れているといった状態で、アジアの各国の距離の近さを肌で感じた出張でした。



平成10年度卒業証書・学位記授与式

医学部医学科および大学院医学研究科の卒業証書・学位記授与式が3月25日（木）午後2時から、臨床第1講堂において挙行されました。

- ・ 医学部医学科卒業生（第48回） 95名
- ・ 大学院医学研究科修了生 17名



医学部医学科卒業生一同



医学博士学位記授与

平成10年度看護専門学校卒業式

看護専門学校卒業式が3月5日（金）午後1時から、臨床第1講堂において挙行され、第一・二看護学科計74名の卒業生が巣立っていきました。

- 第一看護学科（第14回）40名
- 第二看護学科（第30回）34名



平成11年度看護専門学校入学式

看護専門学校入学式が4月8日（木）午後1時から、臨床第1講堂において挙行され、第一看護学科46名、第二看護学科39名、計85名が入学しました。



生前献体者文部大臣感謝状伝達式 ご遺骨返納式典



生前献体者に対する文部大臣からの感謝状伝達式が、4月9日（金）午後1時30分から第2会議室において挙行されました。

また、これに引き続き、ご遺骨返納式典が午後2時から光松寺（本学菩提寺）において、ご遺族の方々をお迎えし、学長、学生部長、解剖学教室関係者及び学部学生の参列のもとに執り行われました。

新入職員辞令交付式

4月1日（木）午前10時から、臨床第1講堂において田中理事長出席のもと、同日付け新規採用者128名に対し、辞令が交付されました。

（内訳）

事務職員	10名
技術職員	3名
看護職員	115名



第4回新入生学外合宿実施

平成11年度医学部新入生に対する学外合宿が京都レクリエーションセンター「亀岡ハイツ」において新入生100名と教職員30名の参加のもと、4月4日（日）～6日（火）の2泊3日にわたり開催されました。



優良電話対応者表彰

電話受付業務において多年にわたり優良な対応に努めた者を表彰する優良電話対応者表彰式が、2月10日（水）、千里阪急ホテルにおいて高槻電信電話ユーザー協会の主催により行われ、庶務課の小関房子さんと日野千賀子さんの2名が表彰されました



主要会議とその主な議題

2月1日から5月1日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

〔理事会〕

(2月9日)

－審議事項－

1. 寄附金について

－報告事項－

1. 新総合棟（7号館）建築実務委員会（仮称）について

(2月23日)

－審議事項－

1. 寄附金について

2. 大阪医科大学学則の一部改正について

(3月9日)

－審議事項－

1. 寄附金について

2. 学校法人大阪医科大学契約職員就業規則の制定について

3. 伝染病棟無償譲渡契約の締結について

4. 平成11年度予算について

5. 看護専門学校長任命について

－報告事項－

1. 薬剤部長の選任について

(3月23日)

－審議事項－

1. 平成11年度予算について

2. 理事の選任について

3. 監事の選任について

4. 評議員の選任について

5. 学校法人大阪医科大学顧問委嘱について

6. 平成11年度主なる事業計画について

7. 平成11年度定員について

－報告事項－

1. 平成10年度資金収支決算見込報告書について

2. ハイテク・リサーチ・センター整備事業について

(4月13日)

－審議事項－

1. 新エネルギー・産業技術総合開発機構受託研究費受入について

〔評議員会〕

(3月27日)

－報告事項(1)－

1. 平成10年度資金収支決算見込報告

－審議事項－

1. 平成11年度予算について

2. 監事の選任について

3. 借入金について

4. 平成11年度主なる事業計画について

5. 寄附金・学債の募集について

6. 伝染病棟無償譲渡契約の締結について

－報告事項(2)－

1. 平成10年度ハイテク・リサーチ・センター整備について

2. 関連事業 株式会社「西泉」について

3. その他

1) 学長報告

2) 病院長報告

3) 看護専門学校長報告

〔教授会〕

(2月3日)

1. 人事に関する件（外国人教員の任用）

2. 学則中一部改正に関する件

3. 教授選考に関する件

4. 次期学長予定者選挙に関する件

5. 教員人事に関する事項の検討委員会からの中間答申に関する件

(2月19日)

1. 平成11年度入学試験に関する件

2. 教授選考に関する件

3. 学長予定者選挙に関する件

4. 次期学生部委員会委員の改選に関する件

5. 教員組織の見直し試案について

(2月24日)

1. 平成11年度入学試験に関する件

2. 人事に関する件（助教授の任用他）

3. 教授選考に関する件

4. 学長予定者選挙に関する件

5. 各種委員会委員の改選に関する件

6. その他

1) 本学学則の一部改正について

2) 入試制度審議会からの答申について

(3月10日)

1. 人事に関する件(助教授の任用他)
2. 名誉教授及び功労教授称号授与に関する件
3. 次期学生部長の選出に関する件
4. 教授選考に関する件
5. 学長予定者選挙に関する件
6. 図書館利用内規の一部改正に関する件
7. 第4回盛記念学術賞の受賞者に関する件
8. その他
 - 1) 次期実験動物センター運営委員会委員及び動物実験委員会委員の委嘱について
 - 2) 次期倫理委員会委員長の委嘱について

(3月24日)

1. 人事に関する件(眼科学講座担当教授の割愛他)
2. 名誉教授の称号授与に関する件
3. 第2学年学生の復学願出に関する件
4. 第1・2学年の進級合否判定に関する件
5. 入試制度審議会からの答申に関する件
6. その他
 - 1) 学長予定者選挙について
 - 2) 臨時主管教授の委嘱について
 - 3) 機器共同利用センター副センター長及び同運営委員会委員の委嘱について
 - 4) ・医学情報処理センター副センター長及び同運営委員会委員の委嘱について
・医学情報処理センター規程の一部改正について
 - 5) 治験審査委員会委員の委嘱について
 - 6) BULLETIN 編集委員の委嘱について
 - 7) 同和教育推進委員会委員の委嘱について
 - 8) 主任健康管理医及び健康管理医の変更に
ついて

(4月2日)

1. 人事に関する件(学内講師の任用他)
2. 平成11年度入学者決定に関する件
3. その他
 - 1) 放射線安全委員会委員の変更について
 - 2) 保健管理室運営委員会委員の委嘱について

(4月21日)

1. 人事に関する件(外国人共同研究者の受入)
2. 学長予定者選挙に関する件
3. 教授選考に関する件
4. 平成11年度入試に関する委員会委員の選出に関する件
5. その他
 - 1) 放射線安全委員会委員の委嘱について

〔大学院医学研究科委員会〕

(2月3日)

1. スペイン・マラガ大学大学院生の短期間受入に関する件
2. 研究生の願出に関する件
3. 学外研修願出に関する件
4. 学位論文受理に関する件
5. 教員人事に関する事項の検討委員会からの中間答申に関する件
6. ハイテク・リサーチ・センター整備事業に関する件

(3月10日)

1. 平成11年度大学院入学試験に関する件
2. 次期大学院小委員長の委嘱に関する件
3. ハイテク・リサーチ・センター規程(案)に関する件

(3月24日)

1. 学位論文審査結果に基づく合(可)否決定に関する件
2. 研究生の願出に関する件

(4月2日)

1. 平成11年度大学院入学者決定に関する件
2. 研究生の願出に関する件
3. 第1学年学生の退学願出に関する件
4. ハイテク・リサーチ・センター規程(案)について

(4月21日)

1. 研究生の願出に関する件

附 属 病 院

平成10年度下半期附属病院患者動態

本年度下半期の患者動態は下記の通りです。

(平成10年10月～平成11年3月)

	人		対前年度増減率%	
	入院患者数	外来患者数	入院患者数	外来患者数
H. 10.10	(905.0) 28,054	(2624.4) 65,609	0.83	5.42
H. 10.11	(896.6) 26,898	(2809.5) 58,999	0.92	12.56
H. 10.12	(849.0) 26,318	(3042.1) 63,885	2.78	11.12
H. 11. 1	(821.4) 25,462	(2689.5) 56,480	3.37	5.22
H. 11. 2	(923.5) 25,859	(2737.4) 57,486	0.67	5.57
H. 11. 3	(908.4) 28,160	(2870.4) 68,890	△ 1.56	8.74
合 計	(883.2) 160,751	(2792.1) 371,349	1.10	8.07

() 内は、1日平均患者数

*平成10年度下半期

入院関係稼動日数 182日

(平成9年度182日)

外来関係稼動日数 133日

(平成9年度131日)

平成9年度・10年度(年間…1日平均)の動態

区 分	入 院		外 来
	入院患者数	稼 動 率	外来患者数
9年度	880.9人	90.1%	2,626.3人
10年度	884.0	88.8	2,744.6

上半期(4月～9月……1日平均)

区 分	入 院		外 来
	入院患者数	稼 動 率	外来患者数
9年度	888.1人	90.8%	2,629.3人
10年度	884.8	88.8	2698.8

下半期(10月～3月……1日平均)

区 分	入 院		外 来
	入院患者数	稼 動 率	外来患者数
9年度	873.7人	89.3%	2,623.1人
10年度	883.2	88.7	2,792.1

平成11年度附属病院臨床研修医

(61名……学内45名、学外16名)

平成11年5月1日現在の各科の臨床研修医数は以下のとおりです。尚、昨年度は99名。

第一内科 9 : 眼 科 4
 第二内科 1 : 耳鼻咽喉科 2
 第三内科 2 : 皮膚科 1
 精神神経科 4 : 泌尿器科 2
 一般・消化器外科 9 : 放射線科 0
 胸部外科 4 : 麻酔科 1
 脳神経外科 0 : 形成外科 2
 整形外科 6 : 歯科口腔外科 6
 小児科 4 : 中央検査部 0
 産婦人科 4 :

保健管理室からのお知らせ

教職員、医学生、看護学生、院生を含めた大きな事業の一つである、平成11年度のウイルス肝炎対策事業がスタートしました。

以前から要望が多かった“HCV 抗体検査”について今年度より希望者を対象にできるようになりました。そこで今回はウイルス肝炎研究財団の資料を参考に“C型肝炎について” “HCV 抗体とは”についてまとめてみました。

C型肝炎とは以前非 A 非 B と呼ばれていたものの一つです。このC型肝炎は、1988年にアメリカで HCV 抗体が発見されたことによって診断が可能となりました。C型肝炎ウイルスは、B型肝炎ウイルスに比べて感染力が弱いのですが、B型肝炎ウイルスと同様に血液によって感染します。ウイルス肝炎は肝細胞を破壊し、肝臓の大切な機能を妨げ全身に大きな害をもたらします。“安静にし、時間をかければ”破壊された細胞に代わる新しい細胞ができてもとの健康な状態に戻ることもできます。C型肝炎は約70%が慢性肝炎に移行すると考えられています。C型肝炎の進行は一般的に非常に遅いので感染してから発病するまでに10~20年かかったり、発病しないでキャリアのまままで一生を過ごす人もいます。

血液検査でC型肝炎キャリアとわかった場合はもちろんですが肝臓の悪い人や家族にキャリアがいる場合には定期的に肝機能検査を受けることが大切です。ワクチンや免疫グロブリンはまだ開発されていませんが、インターフェロン療法が効果的であることはわかっています。しかし、どのような使い方がよいのかよくわかっていません。

他人への感染に気をつけましょう。

B型肝炎 (HBs 抗原陽性) 及びC型肝炎 (HCV 抗体陽性) の場合

- ・直接的または間接的に自分の血液や分泌物が他人につかないように気を配る。
- ・乳幼児に口移しに食物を与えない。
- ・血液や体液が付着する可能性のあるもの (たとえば剃刀や歯ブラシなど) を共有したり貸し借りしない。
- ・切り傷やジクジクしたタダレは包帯や絆創膏でしっかり覆う。
- ・献血は絶対しない。

HCV 抗体とは…その人の体がC型肝炎ウイルスを知っているかどうかを示すものです。

HCV 抗体が陽性であるということが何を意味するのか。

HCV 抗体はC型肝炎ウイルスに曝露して、C型肝炎ウイルスに現在罹患している人、実際に慢性の肝臓の病気がある人と、それから肝炎に罹ったが、すでにウイルスは、排除されて治ってしまった人の両方が陽性になります。HCV 抗体が陽性だと言われても慌てないで、まず専門医あるいは肝臓に詳しい先生に診てもらって過去の感染、それとも現在の感染、現在ウイルスがいるかどうか知るためにも受診をお勧めします。最近では保険診療も可能な検査がありますので調べてもらえます。前回間に合いませんでしたので、新規者のワクチン接種後の抗体検査結果についてお知らせ致します。

平成10年度ワクチン接種後の HBs 抗体検査結果 (新規)

	受検者	抗体 (-)	抗体 (+)
① 病院関係者	71	8	63
-----	-----	-----	-----
医師・技師	28	2	26
看護婦	43	6	37
-----	-----	-----	-----
② その他	183	16	167
-----	-----	-----	-----
学生	96	9	87
看護学生	76	5	71
事務・教職員	11	2	9
-----	-----	-----	-----
合計 ① + ②	254	24	230

ワクチン三回接種終了者の HBs 抗体検査は対象者256人のうち251人（98.0%）受検し、227人（90.4%）が HBs 抗体獲得しましたが24人（9.6%）が抗体陰性のままでした。前回の検査までは結果を陰性、疑陽性、陽性 抗体価 Co I で通知していましたが、今回の抗体検査より EIA 法（マイクロテイクル）に変更になり、それに伴い mlU/ml（国際単位）となります。

データによるとワクチン接種後2～4年で HBs 抗体価が低下する症例が多く陰転する者もいるといわれています。従って、陰転率を低下せしめブースターとして再接種するまでの期間をなるべく延期するよう委員会が検討した結果、本学では最低防御抗体価を 20 mlU/mlと決定し、これを基準として陰性、陽性として個人通知致します。

掲 示 板

B型肝炎ワクチン接種・追加接種後抗体確認検査

実施日 平成11年7月1日（木）、2日（金） 午後2時30分～3時30分

場 所 第10会議室

大阪医科大学俳句会（一／二／三月）

底冷やりユツクは両手自由なり	塚本 務人
無重力無責任なる去年今年	今井 雄介
七草や手近の菜でそろへけり	古川 洋子
大川の橋数へたる花見船	中川 一成
種屋の豆屋の豆や卒業期	奥田 筆子
ゆりかもめ天に見えない螺旋階段	同
日取りより友を選びて探梅行	吉田 孝江
礼服や戸口にはある春の泥	同
福は内おかめばかりの枡の菓子	飯塚 久子
節分や左京吉田の夜店道	和田 明
氷見のひを火と書す絵図の大火かな	山崎 隆司
寒林を前に湯が出る魔法瓶	美濃 眞

（投稿）

投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、当句会で会員の出句と同じように選句します。入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-0084 高槻市沢良木町2-41

大阪医科大学さわらぎキャンパス

俳句会

皆様の参加をお待ちしております。



第1学年オリエンテーション

喜びと緊張と不安を抱いて参加したオリエンテーションも無事に終わり、大学生活にも少し慣れてきました。

今は、五月病などになっている暇はなく、縁あって大阪医科大学に集うことになった100名の仲間達が、揃って良医になれるよう、お互い助け合い、競い合って、それぞれの学生生活を送っています。

大阪医科大学学報 第40号

発行年月 平成11年5月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総務部庶務課

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/OFFICE/>